

## 2025年度堺第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

## 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

**(1) 現状**

KDB データより、健康状態が良い、毎日の生活に満足と答える割合が市全体より多く、主観的健康観は高い傾向が続いているが、健診の受診率が低い状況である。昨年、坂下町会の実態調査で415人中304人から得られた回答のうち、約半数が就労・趣味活動・ボランティアなどの取り組みをしておらず、4人に1人が将来の健康に不安を感じており、高齢者、子供世代の孤立について5人に1人の方が地域課題と捉えていることがわかった。一昨年、坂下町会で町トプレゼンテーションを実施したがグループ立ち上げには至らなかった。

**【課題】**

相原町は急坂の多い地形が多く、転倒の危険性がある。公園が徒歩圏内になく、公共機関の施設が少ないため、閉じこもり傾向となる。主観的健康観は高いが介護予防の取り組みに至っておらず介護予防活動の普及啓発と社会的交流の機会の提供が必要である。

**(2) 現状**

JAGES より、相原町は趣味の会、老人クラブ、町内会・自治会の参加者の割合は1位で最も多く、社会的交流も他地区と比較して最も活発であるが昨年11月に堺市民センターが改修工事に入り市民センターで活動していた自主グループが解散。そのほか、2つの自主グループとひとつのサロン代表者が高齢などの理由で退任。担い手の交代や自主グループが統合している現状である。

**【課題】**

自主グループ、サロン活動維持が不安定な状況であるため、担い手や活動内容の充実化が図れるよう支援していく必要がある。

**(3) 現状**

昨年末、相原町で高齢者住宅における火災が2件発生。そのうち1件は住宅密集地で隣接している住宅にも延焼。住民からは火災に対する不安の声が多く上がった。また、武蔵岡団地での独居高齢者が救急搬送に至るケースも相次ぎ、ケアマネジャーからは身寄りのない方や遠方に親族がいる方への対応に関する相談が上がっている。

**【課題】**

昨年度、地域ケア個別会議を開催し、救急対応について現状の共有をしているが、多職種で緊急事態の対応と連携について相原地域全体で検討し、緊急事態に備える必要がある。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		多世代で取り組める介護予防				
計 画	目標					
	自身の健康に関心を持つ地域住民が増え、自ら介護予防活動を行う住民が増える。					
	2025年度の取組					
	①介護予防普及啓発講座を坂下地区で開催し、介護予防活動の普及啓発と自主活動の活性化を支援する。					
	②中相原地区の後期高齢者を対象にアンケート調査及び見守りを兼ねた訪問調査を実施。					
	③相原小学校で高齢者をはじめ、多世代参加型の介護予防イベントを開催する。					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携
	○			○		
活動指標						
①介護予防普及啓発に関するイベントの開催回数						
②中相原地区での実態調査回答率						
③地域介護予防月間イベントの開催回数						
目標値			①2回 ②50% ③1回			
実績値			①2回 ②75% ③1回			
実 績	2025年度の成果					
	① 1回目は昨年度の坂下町会のアンケート結果をふまえて介護予防の啓発活動(見守りの普及啓発)の強化をした。2回目は中相原町会で見守り普及講座を 5/15 に実施し、フレイルチェックと理学療法士の講義ならび町トレの紹介を実施した。					
	② 中相原地区で全件訪問の形でアンケート調査を実施。145世帯(215名)中108世帯(160名)75%から回答を得られ、全てデータ化し、支援センター職員間で共有。さらに、法政大現代福祉学部の教授にも内容を共有し、専門的見地を踏まえた分析及び課題解決策についてまとめ、町会役員および地域の担い手の方々へ調査結果の共有を図った。					
	③ 相原小学校で介護予防イベントを開催し、サポーターや地域の支援を得て、参加した子供らと多世代交流をした。FC 町田ゼルビアのゼルビーバージョンの町トレと相原プロレスの選手の町トレ体験。相原ジャンボかるたも実施し、多世代の交わりを通して地域住民に広く介護予防を投げかける機会をもった。					
2026年度に向けた課題						
①介護予防普及啓発が求められる地域において自ら担い手を希望している住民の協力を得て町トレなどのグループ立ち上げにあたる。						

<p>②中相原の調査を踏まえて見守りネットワーク構築にむけての働きかけにあたる。</p> <p>③次年度の調査から、法政大と協働で調査項目作成にあたり、地域アセスメントの充実に努める。</p> <p>④ 多世代交流を通して地域住民に広く介護予防を投げかける機会をもつ。</p>
--

取組名(2)		自主グループ・サロンの再活性化					
計 画	自主グループ、サロン活動が活発化し、既存の活動に加え、口腔・栄養・運動・認知症予防に取り組めるメニューを実施できるようになる。						
	2025年度の取組						
	<p>① 町内の自主グループ・サロンへちよい足しメニュー等の伝達とグループ活動の活性化を図る。</p> <p>② いきいき事業部会への定期参加により各団体の状況把握をし、自主グループ交流会、自主グループ情報交換会を開催し、担い手及びメンバーへの後方支援を図る。</p> <p>③オンライン相談拠点を定期開催し、閉じこもり予防と認知症予防を図り、ネットスーパーの活用や地域交流に活かせるように支援する。</p>						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○	○	○		
	活動指標						
	<p>①自主グループ・サロンへの訪問件数</p> <p>②いきいき事業部会、自主グループ交流会、自主グループ情報交換会の開催回数</p> <p>③オンライン相談拠点の開催回数。</p>						
	目標値			① 360件 ②5回 ③10回			
	実績値			① 540件 ②6回 ③8回			
	実 績	2025年度の成果					
<p>① 自主グループ、サロンへの DVD を使用してのロトレ、Eトレの講座により、高齢者へのフレイルチェックと共に介護予防の普及に努め、町トレの後での活動に取り入れられるようになり、活動の活性化を図れた。</p> <p>② 各サロンの活動の実態を把握した。相原町活動団体(自主グループ、サロン等)に支援センター便り、その号外、イベント等のチラシ配布をほぼ毎月実施し、必要な社会資源や要望に応じ、センター主催での講座を開催した。グループ交流会では、保健所の歯科衛生士によるロトレの講座を開催。それにより、町トレグループが町トレの後でロトレを実施している。いきいき事業部会に定期参加した。自主グループ情報交流会ではメンバーの高齢化が著明で存続できないグループ</p>							

	<p>があることも把握した。新グループで活発に活動しているグループは施設訪問を実施した。</p> <p>③ 4～8月(昨年度3月～)オンライン相談拠点にてスマホ相談会を開催。アプリのつなぎ方、Wi-Fi、QRコードの読み取り方について学習。参加者から、継続開催希望の声が上がった。デジタルデバイト対策として普及啓発活動を広めてもらいたいと、12月に東側のJAにてサポーター養成講座を開催し、「相原スマホの会」が立ち上がる。一方、西側では都営武蔵岡は単身高齢者世帯が増加しており、シニア生活を支えるデジタル化の取り組みとして、1月に地域ケア推進会議を開催する。年度末にかけて東側で1回、西側で2回予定している。しかし参加予定者や開催日時等の調整が困難で、目標値には達成しなかった。</p>
	2026年度に向けた課題
	<p>高齢化による担い手不足などから継続・廃止の危機に瀕したサロンを支援して存続できるようにしたり、核家族化や共働きの増加による子供の地域孤立化などの多世代にわたる地域の課題に、地域の方々と共に向き合い、多世代支援にも高齢者と共に取り組んでいく必要がある。</p>

<b>取組名(3)</b>		もしもの事態に備えられるまちづくり					
計 画	目標	地域で緊急事態が発生した際に迅速に協力して対応できる地域づくりを目指す。					
	2025年度の取組	<p>①武蔵岡アパートの関係者(JKK、自治会、民生委員、まちだ福祉〇ごとサポートセンター堺、堺地域障がい者支援センター、地域の居宅介護支援事業所、生活援護課、保健所、警察等)による現状の情報共有。</p> <p>②警察、消防、医療、介護、障がい、民生委員等、多分野の関係機関とのネットワークの構築と救急搬送対応等発生時の円滑な連携について地域ケア推進会議を開催し、対応方法について検討する。</p>					
	当てはまる分野全てに〇	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		〇				〇	
	活動指標						
		<p>①情報共有を目的とした会議の開催回数</p> <p>②救急対応に関する地域ケア推進会議の開催回数</p>					

	目標値	① 1回 ② 1回以上
	実績値	① 1回 ② 1回
実績	2025年度の成果	
	<p>① 1月22日にコーシャハイムで開催予定。武蔵岡アパート・コーシャハイムに関する関係者が集い、当地域で特殊詐欺の案件が多発していることなど、「防犯」「防災」「移動」「買物」など現状について情報を共有する予定。</p> <p>② 5月に警察などの多分野の関係者が集い、独居高齢者の疾病や事故による救急搬送時、ならびに自然災害時(地震・水害)などの支援や連携に関する課題について情報を共有し、日頃からの高齢者の孤立防止にむけた住民間での支援の在り方、救助に関する専門機関との連携などについて意見交換が行われた。</p>	
	2026年度に向けた課題	
	<p>① 当地域で特殊詐欺などの案件が多発しているのは、特殊詐欺の連絡があった際に相談する相手がないなど、地域コミュニティの衰退の一端と見られ、その強化の一助として知人や友人、家族とライン等を使用し、連絡が取れるようスマホなどの情報伝達の普及啓発にあたる。</p> <p>② 救急医療情報キットの普及啓発に注力すると共に引き続き、本件に関する会議を開催する</p>	

### 3 市のコメント

#### 【よい取り組みだと感じた点】

- ・自主グループやサロンへの訪問を実施し、自主グループ等に対し DVD を活用してロトレや Eトレの講座を行っている。既存の活動にプラスする形で介護予防の普及啓発をしており、グループの活性化にもつながっている。
- ・中相原地区のアンケート調査等分析について、市内大学と連携し地域住民にフィードバックしている。

#### 【次年度以降力を入れてほしい点】

- ・ちょい足しプログラム学習会を開催すると、参加グループに「フレイル予防スタートブック」が配付できる。既存の媒体を更に活用し、自主グループの方が学んだ内容を継続して取り入れられる工夫をしてほしい。
- ・もしもの事態に備えられるまちづくりとして、関係機関と情報共有を図り、ネットワークの構築や救急搬送時の円滑な連携について検討している。日頃から災害等を想定した取り組みを行うことは重要であるため、継続して進めてほしい。



## 2025年度堺第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

**(1)現状** : エリアの要介護(要支援含)認定率は15.5%で、サービス利用、未利用含めて946名である。対してエリア内の居宅介護支援事業所は4か所でケアマネジャー数は20名と少なく、そのためエリア外の居宅介護支援事業所に紹介するケースも増えている。また多問題を含んだ権利擁護や虐待疑いの相談もあり、重層的な支援のための知識が求められている。

#### 【課題】

- ① 多問題ケースを抱えているケアマネジャーからの相談が増えてきている。
- ② 柔軟な対応力が求められるケースも増えてきている為、支援者側の負担感も大きい。

**(2)現状** : 小山ヶ丘地域で民生委員不在の地区が2箇所ある。エリア全体の65歳以上独居世帯は1639名(R5)から1705名(R6)に増加しており、「今は元気だが、これからのことに不安を感じる」という相談も上がってきている。最近では、「屋根の修理業者が家に押しかけてくる」「ブラックリストに名前が載っていると電話が来た」といった消費者被害・特殊詐欺被害に繋がるような内容が増え、本人だけでは解決できず、支援センターが関係機関と連携し、対応することが多くなっている。

#### 【課題】

- ① 民生委員欠員地区では支援が必要なケースの発掘や情報発信が困難である。
- ② 独居世帯増加に伴い自己決定支援が受けられない高齢者が増加する可能性がある。
- ③ 高齢者の消費者被害・特殊詐欺被害が増えていく可能性がある。

**(3)現状** : JAGES データより、「認知症発症後の自宅生活希望者割合」は小山ヶ丘小学校区、小山中央小学校区では町田市平均より高く、小山小学校区では低くなっている。また、小山小学校区では「認知症の人も地域活動に参加した方が良いと思う人の割合」が町田市内で最も低く、「認知症の人が、記憶力が低下し判断することができなくなっても、日々の生活について本人が決める方が良いと思う者の割合」や「家族が認知症になったら近所の人に知ってほしいと思う人の割合」も高くはない。また、生活に支障が出ると施設へ入所すべきであるというような声もあり、認知症発症後も住み慣れた家で暮らしたいと考える方は一定数いるが、地域での受け入れには課題があると考えられる。

#### 【課題】

- ① 共生社会のきっかけ作りの場が少なく、参加者も固定化し、地域に広がっていない。
- ② 当事者を介護している家族が支援者や支援センターとつながっていない。
- ③ 認知症になると地域活動をやめてしまう人が多い。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		支え合える街づくり					
計 画	目標						
	ケアマネジャーの後方支援、多職種、多機関との連携を強化し、高齢者が住み慣れた場所で安心して生活を継続することができる地域						
	2025年度の取組						
	①エリア内で相談が増えている多問題ケースの事例検討又は、多問題を抱えたケースへの対応力を向上するための勉強会を行うことで、高齢者の豊かな生活、継続的な支援を図っていく。						
	②ケアマネジャー同士が相談しやすい関係性が築けるよう、テーマを決めてケアマネジャー交流会を開催し、後方支援を行う。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
						○	○
活動指標							
① 居宅介護支援事業所向け事例検討会又は、ネットワーク会議開催数							
② 居宅介護支援事業所向け交流会の開催数							
目標値			①年2回 ②年2回				
実績値			①年4回 ②年2回				
実 績	2025年度の成果						
	① 事例検討会では事前に対応に苦慮している事例についてアンケートを行い、「癌末・独居・金銭問題があるケース」「アルコール・独居・認知・カスハラがあるケース」2事例を検討した。結果、ケアマネジャーだけでは課題解決できず、他制度の活用も困難であるとの悩みが共有でき、他機関との連携や他制度の知識の習得が重要であることが再認識された。またネットワーク会議では社会資源の提供、ACP について話し合いを行った。ACP については医療関係者との連携も重要で、いかに本人、家族の意向を聞き出すかのグループワークを行い、ケアマネジャーとしてアセスメント・モニタリング時に本人の意向を確認しながら終末期における医療の確認も行うことなどの話し合いが行われた。						
	② ケアマネ交流会では多問題ケースの悩みやケアマネジャーのシャドーワーク、AIプランの作成について各グループでそれぞれ話し合いを行い、交流した。エリア以外のケアマネジャーにも参加いただき、介護予防の委託契約を3カ所新規契約することが出来た。						

2026年度に向けた課題
事例検討やネットワーク会議、交流会を通してシャドーワークや緊急時の対応など日頃のケアマネジャーの共通する悩みを把握することが出来た。またエピソードに特化した事例検討は、その時の支援に対しての評価になる為ケアマネジャーの質の向上にも役立つと判断した。ネットワーク会議では今後も地域の情報の提供を行うことでエリア以外の居宅介護支援事業所の支援も行うことが必要であり、交流会ではケアマネジャー同士の情報交換に終始したが、今後は共通の悩みや課題を解決できる場にしていく必要がある。

取組名(2)	高齢者が安心して暮らせる街づくり						
計 画	目標						
	困った時に相談する相手がいて、これからの生き方を高齢者自身が決定し実現することのできる地域						
	2025年度の取組						
	① 民生委員不在の小山ヶ丘地区(住基より)の75歳以上戸別訪問実態調査を行う。 ② 町内会単位で、自己決定及び自己決定支援についての啓蒙活動を行う。 ③ 地域住民に向けた消費者被害、特殊詐欺被害の内容や防止策に関する普及啓発講座を開催する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○				○	○
	活動指標						
	① 民生委員欠員地区の訪問戸数 ② 自己決定支援についての啓蒙活動(講話)開催数 ③ 消費者被害、特殊詐欺被害防止の普及啓発講座開催数						
	目標値			①50戸 ②10町内会 ③年1回			
	実績値			①50戸 ②10町内会、他4カ所 ③年3回			
実 績	2025年度の成果						
	① 民生委員担当区域見直し前の民生委員欠員地区における、80歳以上独居・高齢者のみ世帯を訪問した。あんしんキーホルダーを持っている方もおり、地域の相談窓口として高齢者支援センターの周知が一定程度されていることが感じられた。生活や健康について切迫した困りごとはお持ちでない方が多かったが、介護予防への意識向上と取り組みを広めていく必要性は感じられた。 ② 担当エリアで10町会、地域向けとして小山市民センターで2回、介護予防サポーター向けと介護者家族に向け各1回ACP普及啓発の講話や課題について話し合っ						

	<p>た。ACP 普及啓発のために地域ケア推進会議で作成したチェックシート(もしもの時にはお願いします)を約 300 名に周知することができた。自己決定や支援する家族等においても自分と向き合うきっかけになったと考える。講話で使用した資料を支援センターやあんしん相談室に取りに来られた方もいた。(3 種類 80 部)また、法人 HP より「もしもの時にはお願いします」A3 版と A4 版、用語の説明用紙が自宅で印刷できることも好評である。</p> <p>③ 市民生活安全課、アルソック、消費生活センターを講師とした防犯に関する講座を実施。講師より、特殊詐欺被害、消費者被害、強盗の手口等を紹介した上で、対応策について説明頂いた。本人・家族の他、「地域に対しての普及啓発にも講座内容を役立てたい」との意見が聞かれた。</p>
	2026年度に向けた課題
	<p>自分や家族に向き合うことから自己決定支援の啓蒙や防犯等の普及啓発に取り組んだが、「自分は大丈夫」「死ぬことなど考えたくない」等の意見も散見され、自己決定の必要性の理解が進んでいない部分は課題となった。習熟されるまでの啓蒙や普及啓発の継続、方向性の転換を含め、いかに効果的に行うかを検討する必要があると思われる。</p>

<b>取組名(3)</b>	認知症と共に生きる街づくり						
計 画	目標						
	「新しい認知症観」が広まり、認知症当事者になっても社会的に孤立することなく、仲間と繋がりながら希望をもって自分らしく暮らし続けることができる地域						
	2025年度の取組						
	① D カフェ、認知症イベント、家族介護者教室等 認知症に関する情報について、発信ツールの見直しを行う。						
	② ケアマネジャー等の支援者や事業所、地域へのDカフェ、認知症イベント、家族介護者教室等 認知症に関する情報発信の拡大をはかる。						
	③ 地域に向けて認知症講座を開催する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○		○		
	活動指標						
	① 認知症関連情報に特化した広報誌の作成						
② 広報誌の配布先・掲示先の開拓							
③ 認知症サポーター養成講座、介護予防月間地域型イベントの開催回数							
目標値			①年2回 ②2か所 ③年3回				
実績値			①年2回 ②4か所 ③年6回				

実 績	2025年度の成果
	<p>① 認知症特別号として、認知症基本法や町田市の認知症施策などを集約した広報誌を作成。また、3月に『新しい認知症観』を紹介した内容を作成し、今年度は年2回の発行となった。</p> <p>② 広報誌の新たな配布先として、認知症カフェ開催会場である、すーぷやせかい・医療機関2か所・薬局1か所の計4か所から許可をいただいた。</p> <p>③ 認知症サポーター養成講座は、野津田高校(介護福祉科)、アルファ専門学校(柔道整復師科)、自主グループにて開催。介護予防月間地域型イベントにて、認知症予防講座を実施。計6回の講座開催となった。また、エリア内の認知症サポーター向けに認知症サポーターステップアップ講座を開催。さらに地域イベント、サポーター交流会、家族会、サービス付き高齢者住宅の茶話会の時に町田市の認知症施策について資料を用いて説明した。</p>
	2026年度に向けた課題
	<p>認知症の症状や対応については理解されている方が多かったが、「新しい認知症観」や町田市の認知症施策については認知度が低かった。「16のまちだアイ・ステートメント」の認知度を調査したところ、90%の地域住民は知らないという結果であった。町田市の認知症施策については、地域イベント時などでも周知していく必要がある。</p> <p>介護予防月間地域型イベントでは、当事者を介護する子世代の参加も増えてきているため、子世代にも町田市の施策が伝わるよう、周知方法を工夫していく。</p>

### 3 市のコメント

#### 【よい取り組みだと感じた点】

- ・民生委員不在地区へ訪問するなど、見守り支援の取り組みが継続的に実施できている。
- ・ACPの自己決定支援については、地域ケア推進会議で作成したチェックシートを活用し、幅広く普及啓発活動に展開している。また、チェックシートを、法人ホームページ内でも公開するなど、必要な方が手に取りやすいよう工夫がなされている。

#### 【次年度以降力を入れてほしい点】

- ・ACPの普及啓発について、引き続き展開をしてほしい。
- ・複合的な課題を抱えたケースへの対応について、引き続き関係機関と連携を図りながら対応してほしい。
- ・事例検討会やケアマネ交流会では、ケアマネジャーの後方支援を担っている。今後も事例検討会等では、専門職を招いて勉強会を開催したり、地域のケアマネジャーがひとりで課題を抱えこまないよう工夫してほしい。



## 2025年度忠生第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### (1) 現状

4年目を迎える忠生地区の買い物バス「かしのみ号」は、毎週水曜日に定期運行を継続しており、1日平均25、6名の住民の方が利用している。当日の参加者数によるバス便の調整は住民とバスドライバーで行っているが、住民主体で運営していくための後方支援は必要。昨年暮れより、下小山田町でダイエー3ヶ所、ウエルシア1ヶ所で移動販売を開始した。多いところで18名の利用があり、住民とともにコミュニティーの場所として活用を計画している。

#### 【課題】

函師町、小山田桜台でも、買い物困難、通院困難等の移動支援が必要な地域がある。買い物支援は、地域の特性に合わせた形でアプローチをし、実現に向けて支援していく必要がある。移動支援は、自治会、まちづくり協議会等と協働して地域のニーズの把握を続けながら生活支援団体等の協力が得られるかを含めて、具体化していく必要がある。

#### (2) 現状

小山田桜台は、高齢化率 49%と担当エリア内で最も高齢化率が高く、エレベーターのない団地のため生活をしていくためには階段の昇降が必要。近隣にあった病院がなくなり通院に不便を感じている。下小山田町は、高齢化率 31.1%と担当エリア内で2番目に高い地区である。田畑が多く体力に自信がある高齢者が多いが、重度化してからでないと相談に来ない傾向にある。

#### 【課題】

小山田桜台では、自主グループや町トレ等の集いの場が少ない。下小山田町では、困りごとを家族内で解決しようとする傾向がある。この二つの地区に、介護予防推進員と見守り相談員等が協働で働きかけを行うことで集いの場の発掘と見守りの周知をする必要がある。

#### (3) 現状

8050問題やヤングケアラー等、高齢者を取り巻く環境は複雑化している。まちだ福祉〇ごとサポートセンター忠生が開所し、相談できる窓口が増えているが、スムーズな連携ができるよう地域の専門機関との情報交換会は継続的に行っている。地域のケアマネジャーからは、独居で身寄りのない高齢者を救急搬送する際の救急車の同乗、入院時本人に代わって同意を求められることがある、身寄りがないと入所できる施設が見つかりにくい等の相談がきている。

#### 【課題】

地域の専門機関と連携できるための顔の見える関係づくりを継続し、複雑化した相談についてすぐに対応できる体制づくりが必要である。また、消防署や病院、施設等とお互いの出来ること出来ないことの確認や共有をしていく必要がある。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		移動困難、買い物困難の解決のための働きかけの実施					
計 画	目標						
	移動困難地区、買い物困難地区で解決に向けた仕組みをつくる。						
	2025年度の取組						
	①買い物バス「かしのみ号」継続のための後方支援をする。 ②移動困難、買い物困難な地区に自治会、まちづくり協議会等と協働でニーズを把握し、その地区に合った解決方法を話し合う機会をつくる。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
実 績	活動指標						
	①「かしのみ号」実行委員会の開催数 ②函師町出張相談会の開催数						
	目標値		①4回 ②1回				
	実績値		①4回 ②3回				
	2025年度の成果						
	① 6、9、12、3月に実行委員会を開催。住民、事業所と情報共有し、課題について話し合い、バスを利用する方のADLの変化、認知症と思われる方の把握、対応方法について検討。住民同士の見守り、声掛け、荷物運びのサポート等工夫が見られる。 ② 函師町内会、忠生地区協議会と協働し函師町内会館、馬駈会館、日大三高で相談会を開催。ニーズを把握するため移動に関するアンケート調査を行った。小山田桜台ではまちづくり協議会主体でアンケート調査を行い、結果を共有している。						
績	2026年度に向けた課題						
	① かしのみ号の定期運行を継続し5年目を迎える。利用する方の高齢化に伴い、認知症の方への対応が求められる。かしのみ号利用時の体調不良をきっかけに介護保険申請につながった方もおり、住民主体で運営していく為の後方支援とモニタリングの継続が必要。 ② 函師町は坂も多く広域に渡っており、アンケート調査も会場まで来られる方に限定される為、地域の特徴はつかんでいるものの不十分な点もある。出張相談会の開催場所を増やし、開催に向けた周知方法の工夫と、住民に支援センターを周知しニーズを把握する必要がある。						

取組名(2)		高齢化が進む地域での地域づくり					
計 画	目標						
	エリア内で最も高齢化率の高い小山田桜台と下小山田町で、地域で支え合いながら生活できる環境をつくる。						
	2025年度の取組						
	①小山田桜台商店街で、薬剤師、理学療法士、保健師、看護師、社会福祉士、介護支援専門員と気軽に相談できる「さくら保健室」の開催						
	②「桜台の暮らしをよくする情報交換会」(支え合い連絡会)の開催						
	③小山田桜台、下小山田町で集いの場を立ち上げる。						
	④自主グループや町トレグループ等へ見守りの理解を深めるために訪問してヒアリングを実施する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○		
	活動指標						
①「さくら保健室」の開催数							
②地域ケア推進会議(支え合い連絡会)の開催数							
③地域介護予防グループと町トレグループの立ち上げ数							
④自主グループや町トレ等で見守りの実態調査数							
目標値			①6回 ②6回 ③2ヶ所 ④5ヶ所				
実績値			①6回 ②6回 ③1ヶ所 ④17ヶ所				
実 績	2025年度の成果						
	① 小山田桜台商店街のイベントに合わせて開催。開催月ごとにテーマを固定したことでイベント参加者、相談ブースに立ち寄り方が多くなり顔なじみも増えている。						
	② 新たな参加団体も加えふれあい桜館、よりみち広場で開催。情報交換、活動のヒントを話し合う場面が増えた。会議の内容や進め方のアンケートを実施。						
	③ 小山田桜台集会所に、参加者約40名の小山田桜台健康体操グループを立ち上げた。下小山田町大龍会館の移動販売に合わせ、町トレ立ち上げ準備を進めていたがキーパーソンが不在の為、町内会長と相談の上次年度以降に時期を見合わせ。						
④ 介護予防推進員と同行訪問。気になるメンバーの情報を得ると共にあんしんキーホルダー、救急医療情報キットの周知を行い「認知症について考えよう」講座を開催した。							
2026年度に向けた課題							

	<p>① 年度途中で薬剤師が参加できなくなり、新たな専門職との協働を検討したい。具体的な相談が少なく、気軽に相談できる場としての周知活動が必要。</p> <p>② アンケート結果から各団体に有意義な場となっていることがわかる。情報共有の場から各団体の視点で地域課題について話し合える場となるよう後方支援していく。</p> <p>③ 小山田桜台中心部に来られない方への集い場立ち上げの必要がある。下小山田町では移動販売の場を活用し、集い場立ち上げの希望はあるが、キーパーソンを探す必要がある。</p> <p>④ 活動に来られなくなった方の情報共有はできつつあるが、連絡をくれる方は限定的。見守りに対する意識の確認ができていない地域もあり、認知症講座や救急医療情報キットなどのツールを使用し実態把握をしていく必要がある。</p>
--	--

<b>取組名(3)</b>	課題の早期解決をするための仕組みづくり						
計画	目標						
	8050問題やヤングケアラー等複雑化した相談について早期解決するためのネットワークづくりと身寄りのない独居高齢者の課題の共有をする。						
	2025年度の取組						
	① ケアマネジャーや高齢者支援センターが抱える複雑化した家庭問題からくる相談を、早期解決をするための相談機関(警察、保健所、障がい者支援センター、子ども家庭支援課、生活援護課、社会福祉協議会等)との情報交換会の開催						
	② 身寄りのない独居高齢者を抱えるケアマネジャーや高齢者支援センターにおいて、救急車への同乗や入院、入所同意等を求められるケースがあることから、消防署、医療機関、施設等関係機関と話しあうためのヒアリングを行う。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○				○	○
	活動指標						
	①関係する相談機関との情報交換会の開催回数						
	②消防署、医療機関、施設、ケアマネジャー等への実態把握数						
目標値			①4回 ②1ヶ所				
実績値			①4回 ②1ヶ所				
実績	2025年度の成果						
	① 今年度より消防署、忠生第2高齢者支援センター、医療と介護の連携支援センターも新たに参加し、それぞれの立場や役割、仕事の内容について理解を深め、連携方法や複雑化した家庭問題の現状について情報共有できた。						
	② 消防署、ケアマネジャーへ救急搬送時の対応についてヒアリングを実施。救急隊の動き、病院の受け入れに必要な情報やスムーズに対応できる時間帯を知ることができ、救急医療情報キットの活用が有効であることもわかった。						

	2026年度に向けた課題
	<p>① 複数の機関が関わる複雑なケースにおいて、各機関の役割や責任範囲が明確になっていないと必要な支援が停滞したり、抜け落ちるリスクがある。情報交換会を継続し、忠生圏域での課題を共有し各機関とスムーズな連携の仕方を構築していく必要がある。</p> <p>② 救急車への同乗や入院時の同意を求められるケースは続いており、①同様に各機関の役割を明確にする為、消防署以外にも医療機関や施設等へヒアリングを行い、救急搬送時の現状を確認していくこと、救急医療情報キットの活用と普及啓発が必要。</p>

### 3 市のコメント

<p><b>【よい取り組みだと感じた点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物バス「かしのみ号」の運行について、地域の主体性を引き出しながら支援している。バス利用者の ADL や認知機能の変化等についての見守りを行うなど、利用者の状況把握を含めきめ細やかな対応をしている。</li> <li>・救急搬送時の対応について、消防やケアマネジャーにヒアリングを行い、消防や医療機関から求められる情報を整理している。</li> </ul> <p><b>【次年度以降力を入れてほしい点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複合的な課題の多い家族への支援は、引き続き関係機関と連携を図りながら対応してほしい。</li> <li>・商店街のイベントにあわせて行う活動をきっかけに参加者や顔見知りが増えている状況を踏まえ、引き続き力を入れてほしい。</li> <li>・各関係機関の役割を明確にしながら、救急搬送時には救急医療情報キットの活用や普及啓発に努めてほしい。</li> </ul>
---



## 2025年度町田市忠生第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### (1) 現状

JAGESより低所得者割合、経済的不安感がある者の割合、この1年間に経済的な困難が増した者の割合が市内12センターの中で最も多い。日々の食事にも困り、フードバンク利用の相談や、生活保護申請の支援を要するケース等が後を絶たない。

2024年度、虐待報告書件数は6件、虐待と判断された件数は5件に上る。養護者による虐待だけではなく、知人による金銭搾取がセンターで把握しているだけで3件あった。

消費者被害に遭う地域住民も、増加傾向となっている。

#### 【課題】

高齢者に関連する権利侵害が多様化しているが、適切な支援へつながるまでに時間がかかり、その間をフォローする仕組みがない。どのようなことが高齢者虐待に該当するのか等、地域住民や居宅介護支援事業所への情報提供が不足している。

#### (2) 現状

エリア内の高齢化率は35.3%であり、高齢者のみ世帯の割合も高い。地域とつながりを持つことができない高齢者が多く、安否確認時に死亡しているケースが増えている。

自治会は34か所あるが、見守り体制が構築されている自治会は5か所に留まっている。

見守る側の高齢者が短期間で見守られる側になる事も少なくない。

また、困りごとは多くあるが介護保険では担うことができず、インフォーマル資源がある場合も、様々な制約や経済的理由から利用できない住民が多い。

#### 【課題】

多世代の地域住民及び関係者が主体となった見守り体制や、困りごとを相談できる地域資源が不足している。

#### (3) 現状

エリア内の高齢化率は35.3%であり、単身世帯も増加傾向。フレイル状態に陥る高齢者が増え、介護保険認定申請は多い月で79件、予防プランは月約580件となっている。

JAGESより地域活動参加率が低く、要支援、要介護認定者数が増加している。通いの場は43カ所と緩やかに増加しているが、15,000人弱の高齢者人口をカバーできていない。

また、閉じこもり、プレフレイル、口腔機能低下、残歯数19本以下の者、1日の食事回数が3回未満の者の割合が市内12センターの中で最も高い。

#### 【課題】

フレイル状態にある人、要支援認定者、要介護認定者が増加している。

高齢者人口に対して通いの場が少なく、交流する機会が少ない。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<b>取組名(1)</b>		権利が守られ、誰もが安心して生活できる地域を目指す。					
計 画	目標	地域に対して広く権利擁護に関する普及啓発を行い、地域住民の意識向上を図る。					
	2025年度の取組	<p>① 例年、高齢者虐待と判断されるケースが後を絶たないため、地域住民や居宅介護支援事業所に向けた虐待防止に関する講座を開催し、予防や早期発見につなげる。</p> <p>② 支援センターだよりで、虐待防止や消費者被害防止に関する特集を組み、広く住民に情報提供する。</p> <p>③ 家賃滞納により住まいを失うことなく、高齢者の安心安全な生活を守るため、関係機関との情報共有を通して、地域課題の抽出を行う。</p>					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○				○
	活動指標	<p>① 地域住民、居宅介護支援事業所向けに虐待防止に関する講座を開催。</p> <p>② センターだよりで特集を組む。</p> <p>③ -1 UR、JKK 等との情報交換会を行う。</p> <p>③ -2 関連した地域ケア個別会議もしくは推進会議を開催する。</p>					
	目標値	① 年2回 ② 年2回 ③-1 年3回 ③-2 年3回					
	実績値	① 年3回 ② 年2回 ③-1 年3回 ③-2 年3回					
	2025年度の成果	<p>① 9月25日、エリア内の介護相談事業所向けに虐待防止研修を開催した。11月21日、エリア内の居宅介護支援事業所向けに虐待防止研修を開催し5事業所が参加。どのような場合に高齢者虐待と判断されるかを説明し、共有した。</p> <p>2月4日、都営中里橋アパート住民向けに虐待防止講座を予定。</p> <p>② 「知っておこう高齢者虐待」と題して、7月のセンター便りで特集を組んだ。消費者被害防止については3月号で特集を組み掲載予定。</p> <p>③-1 8月12日、JKK とオンラインで協議を行った。JKK 住まいるアシスタントと連携し、困りごとを抱えながら暮らす高齢者を削減できるよう情報共有を続けることを確認した。</p> <p>10月20日、境川団地16号棟集会場にて、JKK 及び高齢者支援センターより、地域住民を対象としたサービス等を紹介。53名の地域住民も含めた情報交換会</p>					
	実績						

	<p>を新たな試みとしてパネルディスカッション方式で実施した。団地サービスや支援センターの役割等に多くの質問があり、関心の高さを確認できた。</p> <p>12/22 UR くらしつながらるサポーターと情報交換会を実施予定。高齢者の孤立を防ぐための地域活動に関し、検討を行う。</p> <p>③-2 7月9日はJKK、8月13日にはUR強制退去となる住民に対して、関係者が集まり地域ケア個別会議を開催し情報共有と方向性を協議した。今後新たに、強制退去が見込まれるUR住民がいるため、地域ケア個別会議を2月に開催予定としている。</p>
	2026年度に向けた課題
	<p>虐待報告を既に7件あげている。その他、虐待が疑われるが虐待判断に至らない事案は4件。センターの虐待対応会議で常時検討している件数は毎月13件前後。虐待者は何らかの障がいを持っている人が多いが、支援につながっていないことや、養護者自身の相談窓口を知らない住民がいることがわかった。その上で、高齢者支援センターに限らず、相談窓口の紹介や他機関と連携した養護者支援を一層推進する必要がある。</p>

<b>取組名(2)</b>	大型集合住宅を含む周辺地域特有の課題解決に向け、多世代の住民が主体となり、関係者がサポートしていく支援活動を増やす。
計 画	<p>目標</p> <p>地域住民が主体となり、地域の関係機関の協力のもと、地域や自治会の枠を越え、持続可能な支援チームを共に作り上げる。</p> <p>これらの活動により見守り体制を増やし、高齢者の「ちょっとした困りごと」の解決や小さな変化に気が付くことができる。</p>
	2025年度の取組
	<p>① 持続可能な見守り体制を作るために、地域住民の他、地域にある学生等の学校関係者、商店会、スーパーなど地域の多世代の関係者に見守りに関するアンケートを行い、見守りに関心がある住民や関係者を抽出し、話し合いの場を設け、見守り会議開催につなげる。</p> <p>マンパワーだけでなく、民間が提供しているICTを活用した見守りに関する情報発信を行うとともに、UR、JKKとの連携を継続する。</p> <p>② 地域住民、町内会、自治会、民生委員、UR、JKK、介護事業者、ケアマネジャー等の関係者が参加検討し抽出された「困りごとを解決する地域資源」を材料に、実現及び持続可能な地域資源を具体的に検討する。</p> <p>ちょっとした困りごとを解決できる支援者チームの立ち上げを目指して、介護保険制度に多くを頼らなくとも地域での暮らしを続けることができるような体制づくりを推進する。</p>

	当てはまる分	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	野全てに○	○		○	○		
活動指標							
<p>① -1 重点地区(境川住宅、木曾住宅、山崎団地)の住民及び多世代の関係者にアンケートをまずは各地区1回行い、見守りに関心がある関係者を抽出する。</p> <p>① -2 見守りに関心がある住民や関係者との会議、もしくは見守り会議を開催する。</p> <p>② 地域ケア推進会議を開催する。</p>							
		目標値	<p>① -1 重点地区で、年合計3回</p> <p>① -2 年2回</p> <p>② 年2回</p>				
		実績値	<p>① -1 年3回(木曾住宅、山崎団地、境川住宅)</p> <p>① -2 年2回</p> <p>② 年2回</p>				
2025年度の成果							
実績	<p>① -1 見守りに関するアンケートを5～11月に木曾住宅エリア、6～11月に山崎団地エリアの住民、商店会店舗や企業に配布した。11～1月にも境川住宅エリアの住民や企業にアンケートを配布。見守りに関心がある住民や関係者の抽出を3回行った。</p> <p>① -2 アンケート抽出により、11月11日にクリエイトエス・ディーの地域担当者で見守りについての話し合いを行った(1回目)。 境川見守りの会にも参加いただき、エリア内に4ヶ所あるクリエイトエス・ディーの店舗に併設している薬局は、地域住民の健康相談窓口として活用できることや高齢者支援センターと連携できることを確認した。 11月18日にはヤマト運輸の担当者と、見守り電球事業の普及啓発・導入支援や、安否確認時の連携についての話し合いを行った(2回目)。</p> <p>② 昨年度開催した地域ケア推進会議で抽出した「ちょっとした困りごと」「困りごとを解決する地域資源」に関連し、5月21日に実現及び持続可能な地域資源を具体的に検討する地域ケア推進会議を開催した(1回目)。 8、9月には、地域での助け合い活動を住民主体で行う自主グループの立ち上げを目指し、地域住民に協力者を募るアンケートを実施したところ、40名の方から「協力したい」「協力できる」と回答があった。 12月に、助け合い活動の自主グループ化を目指し説明会を開催し地域住民が主体的に活動することの重要性について、理解を得ることができた。 3月にはこれまでの取り組み内容を踏まえ、地域住民の主体性、自主性のもと、どのように地域を支えていくかを考える地域ケア推進会議を開催予定(2回目)。</p>						

2026年度に向けた課題
見守りに関するアンケートで抽出された、見守りに関心がある住民や関係者との話し合いを通し連携の動きが出てきたが、持続可能な見守り活動の構築にはまだまだ課題がある。 また、どのようにリーダーやコアメンバーが現れるかは、当面参加者らの自主性に一任することとなる。自主性のもとにリーダーやコアメンバーが構成されるかが課題。

取組名(3)	フレイル予防・介護予防の普及啓発を行い、健康づくりに取り組む。					
計 画	目標					
	① 地域住民らが集まり、主体となって介護予防を継続して行うことができる自主グループの立ち上げ(特に男性中心)支援を実施。社会資源の更新、情報発信を行う。					
	② 誰でも参加できる講座、イベントの企画、実施、地域住民、多世代の交流を図る。					
	2025年度の取組					
	① 自主グループ活動が乏しい地区に、地域住民らが集まり、主体となって介護予防を継続して行える町トレ、自主グループの立ち上げ支援(特に男性中心の自主グループ)の企画、実施。					
	② 介護予防普及啓発講座、ちょい足し学習プログラムの継続。					
	③ 木曾あんしん相談室での介護予防月間地域型ミニイベントの企画、開催。					
	④ オンライン出張相談の周知、開催。					
	⑤ 地域交流の企画、実施(保育園との交流会、ミニ講座、イベント、品物の交流)。					
	⑥ 介護予防サポーター養成講座の趣旨や開催予定を広く周知し、参加者らを通してキーマンとなる地域住民を発掘する。					
当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○		○		
活動指標						
① ～ ⑥とも年間企画、実施回数を指標とする。						
目標値			① 5回 ② 3回 ③ 1回 ④ 5回 ⑤ 5回 ⑥ 3回			
実績値			① 7回 ② 5回 ③ 1回 ④ 22回 ⑤ 34回 ⑥ 4回以上			
2025年度の成果						

<p>実 績</p>	<p>① 自主グループ活動が乏しい戸建て住宅群の 2 拠点で町トレ立ち上げ支援を行った。5 月に新七国山自治会に「町トレダリア」を、10 月に上宿町内会に「町トレ上宿」の立ち上げに至った。新七国山自治会については単身男性中心の集まりの開催や移動販売、見守り講座等にも波及することができた。その他、介護予防サポーターが発端となった拠点は 2 ヶ所立ち上がった。5 月には都営山崎町第 2 アパートに手芸活動をする「あじさい」が立ち上がる。11 月には、ハンドベルクラブの立ち上げに至った。また、町トレの立ち上げについて折衝中の 3 つのコミュニティでは次年度に自主グループが立ち上がる見込み。</p> <p>② 5 月に木曾南さくら会にて 20 人規模の介護予防普及啓発講座を開催。その他 2 カ所の自治会と講座開催を折衝中。12 月に町田木曾会館町トレにて、ちよい足しプログラムを開催した。新七国山自治会より口腔ケアについて介護予防普及啓発講座の開催希望あり。年度内の開催を予定している。</p> <p>③ 介護予防月間地域型イベントは、毎年支援センター近隣で開催しているが、加えて 10 月に木曾あんしん相談室から徒歩圏内の境川住宅集会所にてサテライトイベントを開催した。当センターでははじめて境川住宅を主とした介護予防月間地域型イベントとなった。</p> <p>日頃から地域課題アセスメントを行い、JKK 東京及び地域に展開するドラッグストアのクリエイトエス・ディー在宅医療チームと共有してきたことを企画内容に織り込むことで、地域特性を踏まえた介護予防イベントとなった。</p> <p>④ 既存のオンライン相談拠点・出張相談を定期開催し、内 7, 8 月に開催したものは町田総合高校の生徒が参加したことで多世代交流となった。その他、ふれあいくぬぎ館や相談関係にある老人会へ周知し 12 月までに 13 回開催。1 月以降の予定含め、合計 22 回開催。</p> <p>⑤ すずめのお宿(D カフェ)とコラボする形で保育園との交流企画を毎月 1 回行った他、参加者向けに周辺地域の課題を基にした講座も開催した。木曾あんしん相談室で活動している、工作関連の自主グループでは、特殊詐欺予防うちわを作成し③のイベントで活用、広報した。</p> <p>ミニ講座は、老人クラブ「みどり会」では毎月 1 回、その他老人会 2 カ所で各 1 回、都営中里橋自治会においては 9 月から月 1 回の定期開催に至った。</p> <p>エリア毎では木曾住宅集会所で隔月 1 回ミニ講座を開催し、町田忠生小山エリア中学校給食センターでは講座及び測定会イベントを 1 回開催した。その他、UR 南多摩住まいセンター、UR くらしつながらるサポーターとの合同イベントを 2 回開催。</p> <p>昨年度も開催した、桜美林大学ひなたやまキャンパス大学祭内での介護予防月間地域型イベントは、1 日ではなく 2 日間開催した。2 日間合計の参加者数 347 名中 222 名が 65 歳未満であり、昨年度課題となっていた多世代参加と、若者とともに地域課題を考える機会を実現できた。</p> <p>センター主体の子ども食堂は、月 2 回定例開催。参加者には、高齢者を含む大人</p>
----------------	--

	<p>も非常に多く参加している。地域住民によるボランティア含め、毎回 50 名規模のコミュニティ形成がなされている。</p> <p>忠生第 2 高齢者支援センターと木曾あんしん相談室の玄関前に、毛糸や紙おむつ、本の寄付コーナーを設置。寄付された毛糸で地域住民が編み物をし、編み物に事業案内を付けて地域に配布することで広く情報発信に活用している。</p> <p>その他、編み物は近隣保育園へのプレゼントとなり子育て世代との交流もはかることができている。</p> <p>⑥ 支援センターだよりを年 4 回発行、⑤での講座時等に多様な媒体での広報を随時行っている。介護予防サポーター養成講座参加者は当圏域で 2 名であったが、現時点で介護予防サポーター以外の役割に波及するようなキーマンへと至っていない。</p>
	<p>2026年度に向けた課題</p>
	<p>戸建て住宅地域における、自主グループ立ち上げや講座開催はまだハードルが高い。特に男性が参加したくなるような集いの場づくりに向け、キーマンをみつける必要がある。</p> <p>接触が乏しい自治会や町内会単位で、コミュニティの実態把握ができていない。戸建住宅群では地図情報まちだを基にしたエリア選定を行う一方で、集合住宅では UR や JKK 東京等の住宅管理組織との意見交換をもとに、広報媒体の工夫や掲示等の協力を得ながら情報発信を行い、地域住民が主体となる自主グループ等の支援を行う必要がある。</p> <p>地域住民や自治会等との相互理解、医療や介護、住まいをはじめとした機関との連携を通し、地域に向けていかに重層的なアプローチを効果的に行えるかが課題である。</p>

### 3 市のコメント

<p><b>【よい取り組みだと感じた点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JKKやURと情報交換会等を開催し、高齢者の孤立や、家賃滞納等で強制退去になる高齢者への支援について検討している。</li> <li>・クリエイト SD やヤマト運輸等の民間企業と連携し、特に、クリエイトSD併設の調剤薬局を地域の健康相談窓口として活用・周知している。</li> <li>・自治会長(男性)と協力し、男性が参加しやすい環境づくりやアセスメントを地道に継続している。</li> </ul> <p><b>【次年度以降力を入れてほしい点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待の早期発見、早期対応のため、高齢者虐待防止に関する普及啓発や、その相談窓口である高齢者支援センターの周知をより一層進めてほしい。</li> <li>・エリア内に大学キャンパスがあり、大学との連携に期待をしたい。</li> <li>・苦勞の多い「キーマンやリーダーの見つけ方・アプローチ方法」について、成功した形があれば他のセンターにも共有してほしい。</li> </ul>
---



## 2025年度鶴川第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### (1) 現状

KDBデータより、運動機会・習慣のある高齢者が市平均より低く、後期高齢者は外出機会も低い。その一方で検診・健康診断受診率は市平均より高い。JAGESデータからはボランティア活動、趣味の会などの活動参加者が市内ワースト1位であり、低栄養割合も高い現状がある。なかでも金井・金井ヶ丘地区は高齢者人口に対して不足している通いの場が金井ヶ丘で5か所、金井で3か所とエリア内で最も不足している地域である。

#### 【課題】

健康意識は高いものの、フレイル予防の理解・知識が十分でなく、社会資源の不足や交流機会を活用できないことで閉じこもりや自己完結型の生活に陥っている。また生きがいや楽しみづくりの機会喪失へと繋がっている。

#### (2) 現状

JAGESデータより『認知症になった際に近隣に知ってほしい』、『避難訓練に参加している』、『災害時対応を家族や知人と話し合っている者』の割合が市内ワースト1位である。2024年度大蔵町での実態把握時に行ったアンケート調査では、センター認知度が4割程度であり、認知症当事者との関わりない人が7割を超えていた。また大蔵、金井、金井ヶ丘地区はあんしんキーホルダー登録数がエリア平均より低い現状もある。

#### 【課題】

自分を理解してもらったり、困った際に周囲に頼ったりすることに抵抗を感じる方が多いことから、地域との繋がりや助け合いの意識が低下し、さりげない見守り、防犯、防災体制の脆弱化へと繋がるリスクがある。

#### (3) 現状

JAGESデータより『情緒的(心配事や愚痴)サポート提供者』割合が市内ワースト3位である。またセンター内での相談内容、地域ケア個別会議、虐待ケース等の相談分析では年々、複合的な課題や家族間トラブルを抱える世帯が増加し、高齢者のみならず家族や同居者の支援も必要なケースが増えている。相談内容が複雑で丁寧な支援方法が求められる一方で支援者や社会資源が不足する現状がある。

#### 【課題】

重層的支援が必要な世帯が増える中、支援者不足などの理由から十分な支援体制の構築に時間や労力を要することがある。従来から行っている医療と介護等の関係機関との連携の他、住民の力やICTを活用した現状に即した体制を構築していく必要がある。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<b>取組名(1)</b>		健康づくり、生きがいを推進し社会参加を促す。					
計 画	目標	フレイル予防に必要な取り組みを住民が理解し、生きがいや楽しみを感じて社会参加ができる。					
	2025年度の取組	①金井ヶ丘地区で町トレグループを立ち上げ、通いの場を増やす。 ②新たな介護予防サポーターを養成し、地域での活動機会を増やして支援する。 ③地域ケア推進会議栄養部会作成の高たんぱくレシピの活用促進を図る。 ④自主グループへちよい足しプログラム学習会を実施し、活動内容の充実を図る。 ⑤短期集中型サービスを利用して地域で活動することや自身で行う取り組みへと繋げる。					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
					○	○	
	活動指標	①町トレスタート応援講座実施回数 ②新規サポーター養成数、サポーター活動人数 ③レシピ配布数④ちよい足しプログラム学習会実施回数⑤短期集中型サービス利用者数					
	目標値	①1回②5名、200名(延べ年間人数)③500枚④2回⑤5名					
	実績値	①1回②7名、237名(11月末時点)③2594枚(11月末時点)④3回(うち1回は予定)⑤6名(うち1名は予定)					
	2025年度の成果	①金井ヶ丘地域で『町トレ花かご』を立ち上げ、通い場を増やすことができた。またこの講座を通じて有楽玉川学園自治会と繋がりができた。 ②新たに7名のサポーターを養成した。活動したサポーターはセンター事業の補助などで活動機会を増やし昨年度以上の延べ人数となった。 ③レシピ活用促進の為、たんぱく以外に、ビタミン・カルシウム強化等フレイル予防に資するレシピを作成し、毎月配布した。 ④各グループへ案内し、希望のあったグループに開催し活動内容の充実へと繋げた。 ⑤新規介護保険認定者やフレイル該当者等へ短期集中型サービスを紹介し、IADL3名、町DAP3名(うち1名予定)の利用に繋がった。うち1名は終了後、地域のグループ活動(ボッチャ)に移行し介護予防に取り組んでいる。					
	実績						

2026年度に向けた課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・金井、金井が丘地域のグループ数はいまだ不足している状態であり、次年度も通い場を充実させる取り組みが必要である。</li> <li>・フレイル予防レシピはデイサービス事業所では浸透している反面、スーパーや薬局などでは配布の伸び悩みが課題である。設置・周知方法を工夫する必要がある。</li> <li>・地域の社会資源である自主グループが継続して活動できるよう支援するとともに、適切な総合事業の利用とインフォーマルサービスとの併用が課題である。</li> </ul>	

取組名(2)		地域でのつながりや支え合いの大切さを知ってもらう。					
計 画	目標	住民やセンターが必要と考える情報を適切、確実に発信し届けていくことで住民が地域で支え合うことの重要性を理解できる。					
	2025年度の取組	<p>①センターの役割を理解してもらい適切に活用してもらうために地域の会合や講座実施時等にPR活動を行う。</p> <p>②広報誌やホームページでの情報発信を行う。</p> <p>③地域の防災訓練(自治会町内会、福祉施設等)の参加を通じて、地域の実情や防災知識を住民や医療・介護事業所等向けに情報発信し、相互理解を強める。</p> <p>④大蔵町、金井・金井ヶ丘地区であんしんキーホルダー登録会を開催する。</p> <p>⑤大蔵町で認知症サポーター養成講座を開催する。</p>					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○			○	
	活動指標	①PR活動回数②広報誌発行回数、ホームページ更新回数③情報発信回数④登録会実施回数⑤養成講座実施回数					
	目標値	①15回②4回発行、12回更新③2回④3回⑤1回					
	実績値	①16回(うち2回予定)②4回発行(うち1回予定)、12回(うち3回予定)③2回④5回⑤1回					
	2025年度の成果	<p>①自治会町内会・老人会、地域の活動団体に対して6回実施した。またあんしんキーホルダー登録会での周知活動を10回開催した。</p> <p>②毎月ホームページで講座・イベントの開催報告や案内等の発信を行った。職員の名刺にホームページQRコードを記載するなど活用を進めた結果、ホームページをきっかけにした参加者が増えた。</p> <p>③大蔵町と金井の防災訓練・避難所開設訓練に参加し、地域ケア推進会議(企画会</p>					
	実績						

	を含む)や鶴川地区社会福祉協議会理事会で情報発信を行った。また在宅避難に向けてのチェックリストを作成した。 ④大蔵町老人会、大蔵町内会夏祭り、金井ヶ丘で活動する自主グループ、金井での福祉施設のイベントで登録会を開催し、キーホルダーの周知、登録数増へ繋げた。 ⑤認知症サポーター養成講座 6 回開催のうち、大蔵町では大蔵小学校学童クラブ対象に実施した。アンケートの結果約 7 割の児童が認知症当事者と接したことがなく、理解・普及の活動の第一歩となった。
	2026年度に向けた課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員の単年制をとっている自治会町内会とは関係構築が難しく、どのようにきっかけを作っていくかが課題である。特に金井ヶ丘 1～4 丁目の小規模自治会と関係構築が不十分であり、関わり方を再検討していく。</li> <li>・防災チェックリストの試行運用を行い、高齢者だけに特化せず、誰でも活用できる備えのチェックリストを作成する必要がある。</li> <li>・小学生から社会人まで幅広い世代に認知症の理解を進めていくため、講座の開催先などを開拓していく。</li> </ul>

<b>取組名(3)</b>	住み慣れた地域で安心して生活できる支援体制を強化する。						
計 画	目標	現在の支援体制に地域住民の力やICTなど既存の資源を加えて包括的に支援する体制の強化を図る。					
	2025年度の取組	①地域版認知症サポーター交流会や自主グループ運営情報交換会を開催し、地域で活動する住民同士のつながりを作る。 ②あんしん連絡員、民生委員、見守りネットワーク見守り員、地域事業者等を対象とした見守り交流会を開催し、つながりを強化するとともに住民の見守り活動の支援を行う。 ③成年後見制度の利用・申し立て支援を行う。鶴川地区社会福祉協議会、〇ごとサポートセンター鶴川と連携し支援者同士の情報交換を行う。 ④臨床心理士相談を活用して家族支援を行う。 ⑤ICT活用(MCS、ケアプラン連携システム等)を促進し、支援者の負担軽減を図る。					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○			○	○
	活動指標						
		①地域版認知症サポーター交流会開催回数、自主グループ代表者交流会開催回数 ②見守り交流会開催回数③申し立て相談・支援件数④臨床心理士相談件数⑤ケアプラン連携システム利用事業所数					

	目標値	①各1回ずつ②1回③5件④6件⑤7事業所
	実績値	①各1回ずつ実施②1回実施③8件④6件⑤7事業所
実績	2025年度の成果	
	<p>①12/19 地域版認知症サポーター交流会、9/17 自主グループ運営情報交換会を開催し、住民同士の交流のきっかけづくりを行った。</p> <p>②9/27 町田警察を講師に招き、見守り交流会を開催した。見守り意識の向上と交流の機会づくりを行った。</p> <p>③個別ケースに対して制度説明、申し立て支援を行うとともに鶴川圏域相談機関連携会議や福祉情報交換会等で支援者・関係機関との現状の情報交換を行った。</p> <p>④家族介護者支援の一つとして居宅介護支援事業所等へも広く周知し、利用に繋がった。</p> <p>⑤7事業所(福祉用具、デイ、居宅)とケアプラン連携システムを活用し、支援者の負担軽減を図ることができた。またその他事業所にも周知しICTの活用促進に繋がった。</p>	
	2026年度に向けた課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の見守り活動が低迷している地域もあり、若い世代にも広く浸透できるようにセンターからの働きかけやモチベーション維持に繋がるような交流会等の働きかけを継続していく必要がある。</li> <li>・臨床心理士相談事業を効果的に活用するため、対象者への適切な案内と相談前後のフォローを行い、効果を確認する。</li> <li>・市内においてケアプラン連携システムの活用が十分でないため、支援センターからも活用の提案や導入フォローが必要である。</li> </ul>	

### 3 市のコメント

#### 【よい取り組みと感じた点】

- ・フレイル予防として、高たんぱくレシピの配布など様々な活動を組み合わせ展開している。
- ・取組計画の指標として、短期集中サービス利用者数や ICT 活用(ケアプラン連携システムの導入事業所数)を入れるなど工夫がみられる。
- ・認知症サポーター養成講座を学童保育クラブで開催しており、小学生も含めて幅広い世代に展開している。

#### 【次年度以降力を入れてほしい点】

- ・フレイル予防レシピの配布において、スーパーや薬局といった民間事業者との連携をさらに強化し、支援が必要な潜在層へ情報が届く仕組みを構築してほしい。
- ・課題として挙げられている「単年制の自治会役員との関係構築」については、役員交代後も円滑に連携が継続できるよう、組織的なアプローチ方法を再検討することを期待したい。



## 2025年度鶴川第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### (1) 現状

2024年度の支援経過では虐待ケースが21名あり、うち5件が死亡や施設入所で終了している。また、サービス未利用者や気になるケースが48名存在し、その中の16名はCMへ引継ぎ、見守り体制が確立されている。一方で、継続確認が必要なケースは鶴川・能ヶ谷地区に多く、独居や認知症、経済的困窮、老々介護など、複合的な課題を抱えている。他機関連携が進んではいるものの、連携のばらつきや対応の遅れがあり、複雑な課題への解決が追いついていない現状がある。

#### 【課題】

孤立や経済的困窮、精神疾患、認知症などの複合的・多様な課題が存在している。また、地域資源や見守り体制が十分に整っておらず、支援対象者の増加に対応しきれていない。そのため、他機関との連携を図り、地域全体で見守るネットワークを構築し、機能させる必要がある。

#### (2) 現状

真光寺3丁目公社住宅

- ・築47年、全7棟、エレベーターなしの3階建て。137世帯中90世帯が自治会加入している(2年前の情報)。自治会役員は17人。
- ・真光寺3丁目の高齢化率は32.31%(2024.12月時点)。公社住宅では、後期高齢者割合が高く、単身世帯と後期高齢者のみ世帯が64%。あんしんキーホルダーの保有率は18.7%。個別ケースでは、虐待ケースや金銭管理が困難な方の相談があった。
- ・公社住宅の集会所は自治会の集まり以外利用されていない。

#### 【課題】

- ・支援センターとの繋がりが希薄である。

#### (3) 現状

三輪地区の高齢化率は約21%で、圏域内では比較的低い地域。以前から賃貸アパート住む単身高齢者に対する相談が多い。2023年に実施した70歳以上単身者へのアンケートにより、自治会未加入の高齢者が多く、地域情報が得にくい状況にあると実態が判明。数年前より地域ケア会議を実施。自治会との接点がない高齢者への対応に関する声上がる。災害時に接点のない高齢者への対応が心配との意見あり。2024年度の会議では、民生委員や駐在所職員から「気になる高齢者の情報共有再開」が提案される。

#### 【課題】

接点の少ない単身高齢者が適切な相談先を知らないために、災害時や緊急時に対応が遅れる可能性がある。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		複合的な問題を解決するネットワークを構築する。					
計 画	目標						
	地域の社会資源を共有し、住民主体のネットワークづくりを提案する。職員全員が連携方法を学び、他機関との連携を強化する。						
	2025年度の取組						
	① 他機関との連携会議(鶴川圏域相談機関連携会議、福祉情報交換会)に職員が分担して参加し、内容をセンター内で共有する。						
	② 能ヶ谷や鶴川など気になる地域に出向き、見守り講座、認知症サポーター養成講座など開催し見守る意識を高め地域づくりを推進する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○	○	○	○	○	
	活動指標						
	① 鶴川圏域相談機関連携会議の開催回数						
	② いままで関わりが薄い地区の自治会や町内会で行う、見守り講座の実施回数						
目標値			① 年3回以上 ② 年1回以上				
実績値			① 年4回 ② 年5回				
実 績	2025年度の成果						
	① 定期開催が定着しており、今年度入職した職員を中心に2名ずつ出席。各専門職の事例への関わり方や連携方法、視点や役割の違いを学ぶことができた。特に、○ごとサポートセンターの事例から、コンビニにチラシを設置して周知している方法を学んだ。						
	② 能ヶ谷、鶴川、三輪町、真光寺で見守り講座を実施することができた。特に三輪町では見守り体制の構築につなげることができた。また、あんしん連絡員の登録が18名追加され総勢45名となった。						
	2026年度に向けた課題						
① 相談機関連携会議や地域への実態把握を通じて、自治会などに加入している方には周知する方法はあるが、どこにも加入していない高齢者に対して周知を工夫する必要性を感じた。また、災害時の安否確認も視野に入れた地域での関係性づくりの重要性も感じた。							
② 見守り講座や相談業務から、更に認知症や下肢筋力低下等の為、支援を必要とする高齢者やその家族が相談できる場所がないという声に対する対応が必要と感じた。							

取組名(2)		真光寺3丁目公社住宅の現状を把握する。				
計 画	目標					
	・集会場所でイベントを開催し、住民の情報収集と支援センターの周知ができる。					
	2025年度の取組					
	① JKK スマイルアシスタントと自治会と打ち合わせを行う。 ② 単発の講座(介護予防普及啓発講座、見守り講座を検討)を開催する。 ③ 講座開催時にアンケートを実施する。(集会所で継続的に活動できるグループを立ち上げるために、どんな活動内容が良いか検討する。) ④ 支援センターの広報を行う。					
	当てはまる 分野全て に○	見守り ○	認知症	生活支援	介護予防 ○	医療介護連携 権利擁護
	活動指標					
	① 打ち合わせ回数 ②講座開催回数 ③アンケートの実施回数 ④広報誌の配布数					
	目標値		① 1回 ②1回 ③1回 ④80部/年			
	実績値		①2回 ②1回 ③1回 ④100部/年			
	実 績	2025年度の成果				
① 自治会役員、JKKと2回実施。 ② 町トレプレゼン講座を実施。 ③ 町トレプレゼン講座開催時に、センター独自のアンケートを実施。アンケートの町トレがあったら通いたいとの結果から、2026年1月から町トレ応援講座を開催予定。 ④ 年3回の広報誌発行時と講座開催時に配布。						
2026年度に向けた課題						
①町トレの自主グループ立ち上がり後の継続支援が必要。 ②既存グループの解散やメンバー減少の相談が多く、既存グループの現状把握と継続支援が必要。						

取組名(3)		三輪地区での単身高齢者に対する見守りの方法を検討する。					
計 画	目標						
	支援センターの存在をしっかりと。困った時に早めに関係機関に連絡が取れるネットワークを構築する。						
	2025年度の取組						
	① 民生委員と駐在所職員の情報共有の場に同席をして、情報交換を行う。 ② 民生委員、駐在所職員と気になる高齢者宅に同行訪問を行い、支援センターの情報を届ける。 ③ 地域内にある、高齢者が気軽に立ち寄りそうなところ(コンビニ2件、スーパー1件、お祭りなど)で出張相談などができる場所が無いか町内会を通して探す。 ④ 近隣のさりげない見守り方法を知ってもらうために自治会、町内会などに見守り講座を開催する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り ○	認知症	生活支援 ○	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	活動指標						
	① 情報交換会の参加回数 ② 民生委員または駐在所職員との同行訪問件数 ③ 町内会を通して新たな場所での出張相談実施場所数④開催できた自治会老人会数						
目標値			①1回以上 ②3件 ③1ヶ所 ④1ヶ所				
実績値			①1回 ②3件 ③1ヶ所 ④1ヶ所				
実 績	2025年度の成果						
	① 2026年1月開催予定 ② 民生児童委員・駐在所職員と連携し、3件同行訪問実施。センターの情報提供を行うとともに、実態把握ができた。 ③ 2026年3月に下三輪老人会で相談会等を予定。また町内会に相談し、理髪店・酒店・コンビニを訪問。新たにセンター広報紙やカードの設置ができた。 ④ 見守り講座を自治会で開催し、地域住民に見守り方法を周知する機会ができた。						
	2026年度に向けた課題						
	②民生児童委員との情報交換会の必要性を再度確認した。他地区にも広げていく必要性について検討が必要。③コンビニや地域のお店も支援センターを知らないところが多く、情報をいかに地域に伝えていくかが課題。④今後見守りネットワークの構築をどのように支援していくかが課題。						

### 3市のコメント

#### 【よい取り組みだと感じた点】

- ・三輪地区の見守りについては、2023年度に実施した単身世帯へのアンケートから始まり、

民生委員や警察等とも連携体制が図れている。

・地域の生活実態を把握し、高齢者が利用しそうな店舗等に高齢者支援センターの広報誌等を設置してもらえよう働きかけを行っている。

・町内会や店舗への働きかけにより広報誌等の設置を実現し、他機関の好事例も柔軟に取り入れながら地域との関係構築を進めたこと。

**【次年度以降力を入れてほしい点】**

・引き続き地域の関係機関と連携を図りながら、見守りネットワークの構築支援に取り組んでほしい。

・店舗への広報誌設置など成果のある活動を継続・拡大し、次年度のポスター掲示等の工夫も進めていくといった部分にも期待している。



## 2025年度町田第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### (1) 現状

原町田・中町エリアはある程度築年数が経った大型オートロックマンションが多く、住民からの相談が増加している。プライバシー保護意識が高い方が多く、情報が得られにくく、親族情報がなく逝去後の対応に困った機関より相談が入ることが増えた。認知症独居高齢者が開錠できず訪問型サービスの提供に支障がある、安否確認が困難など、マンション特有の問題も多い。4か所で継続しているマンションの見守り支援ネットワーク定例会においても活動のし辛さ・担い手不足の声が聞かれる。

#### 【課題】

- ・マンションにおける円滑な福祉サービスの利用促進や関係機関との連携体制構築により必要な方へ支援が届く基盤作りが必要である。
- ・マンション内でのさりげない見守り意識の高揚を図る働きかけが必要である。

#### (2) 現状

KDB データ(75歳以上)(中町)では運動の習慣化が出来、転倒も減少し、物忘れも改善している。しかし社会参加は未だに低く、交流機会も少ない。体重減少や脂質異常が増えている。JAGES データ(エリア全体)でも、フレイル状態が多く、鬱も多い。通いの場では、気軽な参加者としてなら参加するが、面倒な企画運営はしたくないという考えが多く、継続的な活動の支障となっている。

#### 【課題】

- ・後期高齢者に対して社会参加を促し、通いの場の普及啓発を行う必要がある。
- ・介護予防活動(特に運動)の重要性を伝え、活動開始・継続の支援が必要である。
- ・地域活動の継続のためには活動をサポートする新たな担い手を増やす必要がある。

#### (3) 現状

2か所で開催している認知症カフェ参加者が2023年度計143名→2024年度(2月まで)266名と増加している。当事者の自己表現の場として、介護に悩む介護者支援の場としての充実が望まれている。カフェや家族会への男性参加者が少ない、ヒヤリハットケースでは男性介護者の知識不足や孤立が要因と思われるケースが多い。エリア南部の方から家族会に参加しづらいとの声がある。

#### 【課題】

- ・カフェ充実を図るため、更に周知と当事者・家族へ参加を促進する。
- ・エリア南部の方が家族会に参加しづらい。
- ・男性介護者は介護の悩みを抱え込みやすい。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		オートロックマンションに暮らす高齢者の課題抽出及び改善の検討					
計 画	目標	オートロックマンションで生活する高齢者に対し、適切な医療・介護サービスが提供できる体制を検討する場を持つ。高齢者の孤立を防ぎ、支援が必要な方の発見につながるよう住民の見守り意識の向上を図る。					
	2025年度の取組	① オートロックマンション住民からの相談を分析し特有の課題を抽出する。 ② ケアマネジャーの協力を得て支援に係る課題について意見を募る。 ③ マンション管理人や管理会社の情報を収集する。 ④ ①②を基に管理人・管理会社・民生委員・ケアマネジャーなど関係機関との協議の場を持つ。					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○			
	活動指標	オートロックマンションに暮らす高齢者特有の課題について検討する地域ケア推進会議の開催回数。					
		目標値	1回				
		実績値	1回				
実 績	2025年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オートロックマンションでの見守り支援ネットワークや個別のケースから、「さりげない見守りがしづらい」、「解錠操作が困難になると介護サービスを導入できない」という課題を抽出した。</li> <li>・アンケートを実施し具体的な対応事例を、ケアマネジャーから収集した。</li> <li>・11月に地域ケア推進会議を行なった。介護事業者、民生委員、社協、配食事業所が参加し、オートロックマンションの課題の共有と解決に向けた意見交換を行なった。マンション管理人の出席は叶わなかったが、「実務上困っている、大事なテーマとを感じる」等興味を示される管理人が複数名いた。</li> <li>・管理会社と地域ケア推進会議で出た意見を共有した。</li> <li>・地域ケア会議内で、ハローライト等ICTの活用が有効ではないかという意見が出た。それを元に、オートロックマンションで、ICT機器による見守り事業の説明会を開催し、登録に至った事案がある。</li> </ul>					

2026年度に向けた課題
地域ケア推進会議開催に先立ち、管理会社・管理人へ主旨説明と参加要請を行い、課題を共有した。勤務体制等の問題から当日の出席には至らなかったが今後の連携に繋げたい。

<b>取組名(2)</b>	フレイル予防の普及啓発と新たな担い手の発掘						
計 画	目標						
	介護予防・フレイル予防の普及啓発活動を行い、希望する方が参加・継続できるよう社会資源の整備が進む。						
	2025年度の取組						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会資源冊子の更新と地域への配布を行う。</li> <li>○中町で不足している文化的な活動のグループを立ち上げる講座を開催する。</li> <li>○既存の自主グループの継続支援として・町トレ測定会・自主グループ運営情報交換会を行う。</li> <li>○介護予防サポーター養成講座の広報を広く行い、新たなサポーターの養成を行う。</li> <li>○総合相談やイベント・地域住民のロコミ・現サポーターの情報から新たな担い手を発掘する。</li> </ul>						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
					○		
	活動指標						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自主グループの立ち上げ数</li> <li>② 介護予防サポーター養成講座参加者数の内、新たにエリア内の活動に繋がった人数</li> </ul>						
	目標値			① 1グループ ②2名以上			
	実績値			① 1グループ ②2名			
実 績	2025年度の成果						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会資源冊子を更新し、地域(自主グループ、居宅、イベントなど)へ配布することで情報提供を強化した。</li> <li>○中町で介護予防教室を開催し、絵手紙の自主グループを新たに立ち上げた。</li> <li>○自主グループへ町トレ測定会を7回実施し、活動の維持を支援した。情報交換会は3月に予定している。</li> <li>○介護予防サポーター養成講座の案内を13名に行い、町1で活動するサポーターが2名誕生した。町トレ測定会チームに所属したため、測定方法講習会を受講した後に、町トレ継続支援に協力依頼をする予定である。受講できなかった対象者には次年度の受講を案内し、継続的な担い手確保につなげた。</li> </ul>						

	2026年度に向けた課題
	<p>○自主グループの世話役の後継者が不在であり、持続的な運営体制の確保が困難。</p> <p>○新たな担い手発掘のため、地域住民への周知や参加意欲を高める工夫が必要である。</p> <p>○活動会場の確保を支援することで継続支援を行う。</p>

<b>取組名(3)</b>		認知症当事者や家族が相談しやすい場の充実を図る。					
計 画	目標						
	認知症当事者や家族介護者が気軽に相談出来る場づくりを行うことにより、支援と繋がるきっかけを作る。						
	2025年度の取組						
	<p>○ケアマネジャーやサ高住等へカフェ・家族会の周知を促進する。</p> <p>○カフェの充実を図るため前年度アンケート結果を反映させて企画を行う。</p> <p>○カフェ・家族会・臨床心理士相談等の合同開催等により連動を図る。</p> <p>○出張カフェの開催により、これまで参加できなかった方へアプローチを行う。</p> <p>○一人で介護を担っている男性介護者のニーズ調査を行う。</p>						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○				
	活動指標						
	<p>① 出張カフェの開催回数</p> <p>② 男性介護者のニーズ調査の実施回数</p>						
	目標値			① 1回 ②1回			
	実績値			① 1回 ②1回			
実 績	2025年度の成果						
	<p>○カフェ・家族会の案内を作成し居宅介護支援事業所へ配布した。ケアマネ対象勉強会にて活用事例を紹介し活用を呼び掛けた。</p> <p>○前年度アンケートを基に参加者が活躍できる手工芸等を取り入れた。</p> <p>○家族会参加者が家族介護者教室に登壇し、介護者支援として体験を話す場とした。</p> <p>○中町にて出張カフェを開催し、既存カフェに参加しづらい利用者の参加を得た。</p> <p>○在宅介護者に対してニーズ調査を実施し、男性介護者を抽出し分析を行った。介護を代行する人がなく抱え込みやすい・認知症への理解に乏しい傾向が把握できた。</p>						

2026年度に向けた課題	
	<p>○傾向は見えてきたものの、有効回答数が 50 に達していないため、男性介護者のニーズ調査を継続する。居宅介護支援事業所の協力を仰ぎサンプル数を増やす。分析を基に具体的支援について検討を行う。</p> <p>○カフェ内でのサポーターの役割やメンバーが固定されていることの弊害も見られることから新たなサポーターが活躍でき、サポーター間でも交流が図れる運営を目指す。ニーズ調査ら把握した家族の抱える不安を軽減する内容を検討し家族介護者教室・家族交流会を開催する。</p>

### 3 市のコメント

<p><b>【よい取り組みだと感じた点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア推進会議開催に先立って、オートロックマンションに住む高齢者の孤立化や、適切なサービスや支援に繋がりにくい状況について、必要な関係機関との調整を丁寧に進めている。</li> </ul> <p>介護予防サポーター養成講座の継続性を維持するために「まちトレ測定会」を活用するなど、単なる登録に留まらず、サポーターを活性化させるために様々な工夫を凝らしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症カフェや家族介護者支援において、ニーズ調査を行い、よりニーズに沿った支援を実施している。</li> </ul> <p><b>【次年度以降力を入れてほしい点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オートロックマンションの課題については、引き続き関係機関と課題を共有しながら、個々の支援の成功例を積み上げてほしい。</li> <li>・測定会を活用したサポーターの形骸化防止策は、地域力向上にも直結する効果的な取り組みだと思う。今後もサポーターが活躍できる場を提供し、活動を発展させていくことを期待する。</li> </ul>
--



## 2025年度町田第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### (1) 現状

支え合い活動が減り、KDB データでは本町田・藤の台圏域内の手段的・情緒的サポートの受領者、提供者の割合が低い。結果として社会参加やたすけあいのソーシャルキャピタルは低く、幸福感の低下の要因の一つになっている。

#### 【課題】

- ・情報や知識が共有されず、生活上の気づきや工夫を得にくくなる
- ・生活上の困難なことを補い合う事ができず、住民同士の「関係の質」が高まらない
- ・住民の生活防御力が低下し、詐欺等の被害に合うリスクとなる
- ・相互の信頼や協力が得られず、治安・健康・幸福感などに良い影響が得られにくい

#### (2) 現状

「周囲に迷惑をかけたくない」「知られたくない」などの理由から、認知症の方が引きこもるケースが多い。昨年からはじめた月1回のユニカール交流会は、認知症の方やご家族、障がいのある方、サポーター、子や孫などの多世代が参加され、のべ参加人数は100人を超え交流の機会となっている。

#### 【課題】

- ・まだ出会えていない方へ「ユニカール交流会」の周知
- ・参加者が会場周辺居住の方に限られている
- ・参加希望者を受け入れるための、サポート、スペース、用具が不足している
- ・顔は分かるが名前が分からない関係性

#### (3) 現状

総合相談において、複数の課題を抱えるケースが多い。家族がそれぞれ、貧困や引きこもり、介護など複数の問題を抱えており、それが家族間で複合し、アルコールやギャンブル依存症、虐待などの、さらなる問題を引き起こして悪循環になっている。

#### 【課題】

- ・同居の若年層の支援に対してはアウトリーチを含め対応できる関係機関が不明瞭
- ・金銭的理由から、介入拒否やサービス導入等での支障が多い
- ・地域権利擁護事業、成年後見制度の利用に繋がるまで時間を要するため、ケアマネジャーや介護保険サービス提供事業所の負担が大きい

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		支えたい・支えられたい住民をつなぐ取り組み 生活支援団体「本町田たすけあい」の立ち上げ育成支援					
計 画	目標	互助活動により情緒的・手段的サポートができ、住民同士の「関係の質」が高まる。 結果として圏域内で暮らす高齢者の安心と幸せ感が高まる。					
	2025年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支えたい人と支えられたい人をつなげる</li> <li>・住民の互助活動へ関心を高める</li> <li>・登録会員へ地域の見守りの意識を育成する</li> </ul>					
	当てはまる分野	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	野全てに○	○		○			
	活動指標						
		① 広報誌とホームページで活動を紹介する ② 定例会に出席し助言する ③ 登録会員向けに見守り講座を開催する					
	目標値	① 広報誌とHP 各1回 ②10回 ③1回以上					
実績値	① 資源冊子、広報誌、HP、回覧版 ② 11回出席 ③ 見守り講座開催 1回						
実 績	2025年度の成果						
		① 資源冊子第2版の掲載・配布 町田第2高齢者支援センターHP掲載し目標値達成。本町田たすけあい発足時、店舗、クリニック、診療所、薬局等、20箇所をまわり、執行部と案内を行った。その後も、資源冊子、チラシを個別訪問や自主グループへの配布。地域に回覧してもらうなど活動の紹介を行った。立ち上げ時、活動登録希望者の22名が集まり18名が登録会員になった。 ② 毎月の定例会に出席(8月は定例会の開催なし)し、3月末目標値達成見込み。「本町田たすけあいのメンバー」は、全員が未経験者である。毎月の定例会では、会場選定、希望者からの受け入れ手順、登録会員のルール等を作成した。6月には「えくぼの会」の元執行役を紹介。「おたすけ隊」のリーダーを招いて勉強会を開き、会の「分からない」をサポートした。 ③ 11月に見守り講座を開催し目標値達成。各種補助金サポート、研修紹介と共に、「見守り講座」「介護保険」講座を行いメンバーの学びの機会を設けた。登録会員は28名、40回以上、合計80時間、活動実績があった。					

2026年度に向けた課題	
① 活動資金の調達(賛助会員を増やす) ② 登録会員の増員 ③ 会員のモチベーションの維持・向上(交流の機会を増やす) ④ 参加しやすい定例会 ⑤ 勉強会の開催	

<b>取組名(2)</b>		認知症の方と多世代をつなぐ取り組み。「ユニカール交流会」活動を強化する					
計 画	目標						
	認知症の方とそうでない方が活動を通して一緒に笑い、褒め合い、励まし合うなど、感情を共有する。その結果、認知症への先入観を超えた個々の関係性が築け、その関係性の数が圏域内に増える。						
	2025年度の取組						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ユニカール交流会」の日曜日開催を継続する</li> <li>・1回の受け入れ人数を増やす</li> <li>・圏域内の遠方からも参加できるようにする</li> <li>・参加者同士が相互に名前呼び合う工夫</li> <li>・参加者同士の交流の質を高める</li> </ul>						
	当てはまる分	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	野全てに○	○	○		○		
	活動指標						
	① 認知症の方、MCI、SCIの方の参加延べ回数						
	② 認知症でない方の参加延べ回数						
	目標値			① 60回 ②150回			
実績値			① 44回(昨年比 25回増) ②165回(昨年比 57回増)				
実 績	2025年度の成果						
	① マイナス 16回で目標値未達成。年度の途中で体調を崩され退会した方、ご家族のご都合により送迎が出来ない等の理由での欠席がマイナスとなった要因。参加した方からは「よく笑う」「楽しくいかなきゃね」等ポジティブな声が聞かれ、継続して参加されている。日時や場所を覚えてもらえない方を、近所の参加者が迎えに行く、電話で前日に声をかけ合うなどの関係性が生まれた。ルールが覚えられない方へ、声を掛ける場面が増えた。名札を付け、活動内容を対戦式等に工夫してゲーム性を高め、参加同士が名前呼び合えるようにした。有志で外部の「ユニカール						

	<p>トーナメント」に出場するなど、会以外での交流活動に発展している。</p> <p>② 達成。毎月第3日曜日にユニカール交流会を固定開催。会が認知され、徐々に参加者が増えた。1回の平均参加人数は13名で昨年よりも4名増加した。高齢者宅に遊びに来ていた幼児・小学生3名や、夏休み期間には市内の高校に通う学生6名が参加した。遠方からの参加者を受け入れるため6月からバス送迎を開始。11月時点で28人にバス利用があり、年度内52人が送迎バスを利用する見込みがある。また、エリア外から認知症サポーターや、サポートオフィススタッフ、薬局職員、介護予防サポーターの参加もあった。認知症であるかどうかにはフォーカスを当てずに活動を進め、初めての参加者に教える、体調が悪そうな人に声をかける、上手くパフォーマンス出来た方を褒める、習得を労うなど、互いに支え合う機会が生まれている。</p>
	2026年度に向けた課題
	<p>① 若い世代の参加者を増やす。</p> <p>② 毎回の用具の調達を町田市ユニカール協会に頼っている。(使用が重なると開催できない)</p> <p>③ 夏季の飲料水、文具、オイル、テープなど消耗品などの活動資金の調達。</p> <p>④ ユニカールの習得レベルに応じた飽きない工夫。</p>

<b>取組名(3)</b>	相談者が抱える課題と専門職をつなぐ取り組み。住民の生活を支える体制の強化					
計 画	目標					
	相談者が抱える課題について適切に専門職につなぐ。それぞれが専門性にに基づき支援を行うことで、複数の問題を抱える家族が課題を解決し、可能な限り住み慣れた地域で希望にちかい形で暮らし続けることができる。					
	2025年度の取組					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別ケア地域会議の開催</li> <li>・ケアマネジャー支援</li> <li>・専門職の連携強化のための情報交換会</li> <li>・虐待ケースの対応の強化</li> </ul>					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携
		○		○	○	○
活動指標						
<p>① 地域ケア個別会議の開催数</p> <p>② 専門職の連携強化のための情報交換会および勉強会</p> <p>③ 虐待ケースの評価日の設定とモニタリングの実施</p>						

	目標値	① 24回 ②4回 ③100%
	実績値	① 19回 ②41回（主催：3回、参加：38回） ③ 100% (8/8回)
実績	2025年度の成果	
	<p>① 未達成。町2では認知症に関する地域ケア個別会議が多いが、カウントしていないケースがあった。地域ケア個別会議の定義の周知が不足している事が分かった。次年度に向け、地域ケア個別会議の定義をセンター内で修正する。</p> <p>② 目標値達成。町田圏域地域ケア推進会議1回開催、町田圏域情報交換会2回開催。会場の手配が困難で、案の段階で実現しなかった会議が2回ある。他研修会や情報交換会へは3職種8名が計38回出席し、センター内で話し合いの主旨、意見交換の内容、連携に関する今後の方針などを共有することで連携強化の必要性の認識を高めている。</p> <p>③ 8事例中4件が同一ケース。本人から刑事裁判を提起申請しており、息子との接見に制限あり、評価日と目標設定が困難であった。長年の家族の関係性が寄与しており、根本的な解決は困難。計画通りの支援にならなかったが、評価日設定とモニタリングの実施は行っているため、目標値達成とした。</p>	
	2026年度に向けた課題	
	<p>① 地域ケア個別会議の開催方法の周知</p> <p>② 地域ケア推進会議の会場候補を増やす</p> <p>③ ケアマネジャーをはじめとする専門職との顔の見える関係の継続。</p>	

### 3 市のコメント

#### 【よい取り組みだと感じた点】

- ・「本町田たすけあい」の育成支援について、団体の立ち上げにかかる支援だけでなく、補助金申請の書類作成等、立ち上げ後の活動のサポートをきめ細やかに実施している。
- ・高齢者虐待の評価・モニタリングを丁寧に行い、高齢者の希望に寄り添いながら支援をしている。
- ・認知症の取り組み目標として、一緒に笑い、褒め合い、励まし合うなどの感情の共有をあげ、認知症のイメージを変える(新しい認知症観の普及)取り組みを積極的に行い、成果をあげている。

#### 【次年度以降力を入れてほしい点】

- ・認知症の方やその家族、地域の方、認知症サポーターなどが参加する「ユニカール交流会」にて、参加者同士が認知症の有無にかかわらず、個人同士の関係性を気づいており、このような取組が市内で増えていくことを期待する。



## 2025年度 町田第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### (1) 現状

東玉川学園地区は、約40年前戸建て分譲地として開発されており医療機関や商店が無い閑静な住宅地である。4つの丁目があり自治会は5つ存在する。人口動態でみると、人口は当エリアの約11%でここ10年ほぼ増減横ばい状況。高齢化率は29%とエリア内平均27.7%より高い。KDBによると主観的健康観や受診率・社会参加など市平均より高く、実際に見守り活動など住民の意識は高い。一方現状としては、認知症の相談が増加しており、また集う”場“がこすもす会館しかなく遠い、坂と階段が多く買物や外出が困難になるなど生活のしづらさがあり、高齢者のフレイルリスクが高くなる。

#### 【課題】

- ・スーパーなど買い物に行くところがない、集える会場が遠い、階段や坂が多い。
- ・高齢化が加速しており住民が外出できる場や目的が必要と考える。

#### (2) 現状

2024年度、もの忘れ相談14件(稼働率50%)とコンスタントに相談があり、また臨床心理士による介護者相談の全数が認知症状に伴う相談であり、総合相談等でも認知症ご家族の相談が増えている現状がみられている。また当エリアでは、地区社会福祉協議会での介護者の集いなどの既存活動が盛んであり、センターとしても連携協働し情報や知識の普及啓発などに努めている。そんな中、昨年、認知症の方の家族から「家族同士でもっと話したい」という具体的な声が上がっていた。

#### 【課題】

- ・集いたいという希望がある認知症の方の家族が交流できる場がない。

#### (3) 現状

南大谷地区は、玉川学園エリアとは生活圏が異なり、広い面積を持つがバス路線など交通機関が少ない。人口は当センターエリアの約37%を占めており、毎年微増であるが人口増がみられている。高齢者数はほぼ横ばいであるが、比率にするとエリア内では平均より高齢化率が低い。JAGESから地区特性を見ると、主観的健康観やIADL低下割合、認知症機能低下割合が低い。一方、自主グループ参加意向がやや低いという一面もみられている。現状は、自主グループ活動が主としてさくら会館と都営団地集会所の2会場に集中している。そのことから、自宅近くに活動できる場が少ないことが、自主活動参加意向が低い要因と考えられる。

#### 【課題】

- ・住民が集える”場“が少ない。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		東玉川学園地区住民の生活支援に取り組む。					
計 画	目標						
	住民へのヒアリングにより生活上のニーズや想いの把握に努め、既存の社会資源の十分な活用を図るとともに、新たな社会資源の発掘(創出)を検討していく。						
	2025年度の取組						
	東玉川学園で活動している自主グループ(町トレ、他)や介護予防サポーター、認知症サポーター、あんしん連絡員、そして在住している介護予防ケアマネジメント対象者に訪問調査やアンケートなどにより生活実情を把握する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
活動指標							
① 住民への聞き取り数							
目標値			①年間100名				
実績値			① 113名(内訳エリア内106名) 回収				
実 績	2025年度の成果						
	自由記載も含め19項目のアンケートを実施。生活環境で困っていることは「坂や階段多い」が63%と、センター職員が肌感覚で感じていたことが住民の声として明確化された。また買い物等、外出の生活圏が成瀬方面である実情が見えた。そこで、社会資源情報として成瀬方面も含め周知するよう準備をしている。また、「通いの場」をエリア内に創出したいと考え、地域住民の方とともに新たな「会場」を2か所模索し始めた。そのうちのひとつである成瀬教会であんしんキーホルダー登録会や講座を年度内に開催予定。						
	2026年度に向けた課題						
今回のアンケート結果からみえてきた課題としては、①より身近に「通いの場」が少ない。新たに候補に挙がっている2か所で活動ができるのか、住民とともに動いていく。②通いの場などセンターから発信する社会資源エリアが限定されている。今後はその方の生活にあわせ成瀬方面の情報も他センターと協力して情報発信していく。							

取組名(2)		認知症の方の家族等への支援に取り組む。					
計 画	目標						
	認知症の方の家族の集いの場があり、他の家族と交流する中で、認知症への理解を深め、孤立せず不安や負担の軽減を図る。						
	2025年度の取組						
	① 認知症の方の家族の集いを開催する。 ② 家族の想いを把握し、その後のご支援を検討していく。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○				
実 績	活動指標						
	① 認知症ご家族の集いの開催数						
	目標値		① 年間1回以上				
	実績値		① 年間1回開催				
2025年度の成果							
働いている家族世代を意識し参加しやすいようにと祝日に開催。地域密着型通所介護「くつろぎ」の協力を得て、通所曜日変更や認知症ご本人のお預かりも可能とし、ご家族10名参加(当事者お預かり参加は無)。参加者からは「他の方の話が参考になった」「自分だけではないと励みになった」「情報交換は必要」などの声が聞かれた。また、参加された民生委員2名が認知症をもっと学びたいという感想をもたれた。教室後、個別相談に対応し新たな支援体制や男性介護者の集いにつなげた。							
2026年度に向けた課題							
認知症家族の集いの必要性は実感できているが、同時に実施の難しさも感じている。実施するための課題としては、①ご家族が参加しやすい条件(日時、場所、時間、など)。②より多くのご家族への周知・広報の工夫。							



・地域の事業所の協力も得ながら、通いの場の立ち上げだけでなく、子どもなど多世代のつながりも見据えた介護予防の場づくりに取り組んでいる。

・地域の事業所と協力し、認知症の人の家族介護者交流会を実施することや、既存の男性介護者の集いへ繋げるなど、地域の様々な主体と連携・協力して事業を進められている。

**【次年度以降力を入れてほしい点】**

・認知症の人の介護者交流会を開催するにあたり、当事者預かりも可としたが、当事者の参加がなかったことについて、理由を確認するなど振り返りを行い、次年度以降実施する交流会に参加したい人が参加できるように検討してほしい。



## 2025年度南第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### (1) 現状 認知症に対する理解向上の推進、新しい認知症観の普及

2024年度の講座後アンケートから認知症に関して地域の関心は高いが、認知症にはなりたくないとの負のイメージが強いことがわかった。病気の正しい理解が不十分で「我がこと」になるにはまだ時間がかかる状況。さらに、家族介護者交流会等から出た意見から、認知症の方の介護をする家族の心理的負担が多いことが伺える。

##### 【課題】

認知症と共に生きる街をつくるには、「新しい認知症観」を時代と共に推し進め、関心がある人を増やし「我がこと」として理解度を引き上げていくことが必要。家族介護者への支援に関しては、どのような内容、開催方法であれば介護ストレス、負担が減るのか引き続き関係者からも意見を徴収し、模索していく必要がある。

#### (2) 現状 閉じこもらない、地域デビューの促進

エリアの中でつくし野は最も高齢化率が高く、自治会加入者、老人クラブ参加者も減少している。山坂が多く、拠点に行くまでの移動にも苦慮し、関係者からも閉じこもり高齢者が増加しているとの声が上がっている。また、JAGESによると、地域特性として近隣の活動への参加意欲が低く、外出できる方と閉じこもりの方で環境格差が生まれていることが伺える。その一方で、講座等で実施したアンケートによると介護予防に関心があるなど、健康意識は高い。

##### 【課題】

生活圏の中で自分に合った活動への参加に繋がるような案内が必要。また、南市民センターや原クラブ会館など地域の活動拠点が改修工事等の影響で使用できなくなるため、二年ほど徒歩圏内の活動拠点が減少することも課題。それらを拠点としている老人クラブは地域活動の要でもあることから、活動の後方支援を積極的に行う必要がある。地域の強みを生かしたアプローチが必要である。

#### (3) 現状 安心して暮らす、支え合うネットワークづくり

前年度、各地域でそれぞれのネットワークを再度繋ぎ合わせ、見守り合う体制の構築を行ってきたが、高齢化率の高いつくし野地域において、自治会、団体組織の高齢化も顕著で互いの見守りができなくなってきた。また、その一方で身近で発生した特殊詐欺、強盗などの事案によりエリア内の住民の防犯意識が高まっている。

##### 【課題】

引き続き高齢者だけではなく、多世代において支え合う仕組みが必要。地域、民生委員と居宅介護支援事業所、介護サービス事業所と連携して防犯の意識を高めることが求められる。関係機関と連携して、地域課題の解決に向けて、支え合い、助け合える仕組みを作る体制と一緒に考えていく。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)	認知症に対する理解向上の推進、新しい認知症観の普及						
計 画	目標						
	認知症を排除せず、様々な「認知症と共に生きる」形を普及させる。						
	2025年度の取組						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当地区内の介護サービス事業所と連携し、D カフェやオレンジみなみ風の定例化を通じた居場所づくり</li> <li>・認知症当事者の想いを取り入れた南第 1 版のアイステートメントかるたを制作、普及する。</li> <li>・つくし野地区にてより専門的な認知症の知識を深めるために鶴川サナトリウム病院に講師依頼し認知症普及啓発講座を実施</li> <li>・全域で若年性認知症当事者の生の声を聴く認知症サポーター養成講座を実施</li> <li>・家族介護者交流会にて昨年度要望の多かった家族ストレスの講座を実施</li> </ul>						
	当てはまる分	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	野全てに○	○	○	○	○	○	○
	活動指標						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 認知症普及のための居場所 参加数(延べ数)</li> <li>② 認知症に関する講座等開催数と参加者数</li> <li>③ 家族介護者交流会、教室参加数</li> </ul>						
	目標値			① 50名②3回と50名③30名			
	実績値			① 200名②4回(+2月に一回)140名③42名			
実 績	2025年度の成果						
	<p>目標値を大幅に超える講座、参加数となった。特に、チームオレンジであるオレンジみなみ風の参加者が居場所として定着してきており、当事者と家族の意見として不安に思わずに参加しているとの話が出ている。また、Dカフェとも連携し、地域へ向けて認知症の普及啓発が実施できた。当事者がスピーカーになった認知症サポーター養成講座、鶴川サナトリウム病院の認知症普及啓発講座においても、つくし野地区の参加者を中心に多くの専門職や住民へ正しい知識と当事者の想いを届けることが出来た。また、完成した「認知症かるた(仮称)」を活用し、意見交換の過程で出た当事者や家族の想いをつくし野の秋祭り等の地域イベント、町田総合高校の生徒等多世代へ向けて発信することができた。</p>						

2026年度に向けた課題
<p>今年度は新しい認知症観を地域へ届けることを目標として活動してきた。講座のアンケートより、参加したことで、当事者の視点から認知症を考える一つのきっかけとなったことが分かった。その反面、認知症当事者による認知症講座を実施したところ、物忘れが心配だと話す住民がいてもそれを安心して言えない場面があった。まだまだ認知症に対する負のイメージを払しょくできていないことが伺える。また、介護者は支援者でもあるが、被支援者でもある。介護者の負担を軽減していくためにも地道な認知症の普及啓発活動を行う必要がある。引き続き新しい認知症観の視点で住民の意識を変えることで、地域で認知症を需要し合えるような仕組みが必要。</p>

取組名(2)	閉じこもらない、地域デビューの促進						
計 画	目標						
	高齢化率の高いエリアで実態を把握。閉じこもり高齢者に向けて楽しくフレイル予防ができるよう促していく。						
	2025年度の取組						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸別訪問、地域のお祭りの参加等を通して実態を把握するアンケートを実施。</li> <li>・二次元コード、IT ツールなどの講座を行い、オンライン弱者が時代の波に乗れるように支援を行い、閉じこもり予防に繋げる。</li> <li>・閉じこもり高齢者へつくし野お散歩マップを配布し、チームオレンジのひとつである「オレンジみなみ風」と連携したウォーキングにて外出の機会をつくる。</li> <li>・介護予防月間地域型イベントを通じて住民の地域活動への参加を促す。</li> <li>・広報誌を活用して講座や出張相談会等で配布し、老人クラブの活動紹介を行い、閉じこもり高齢者の参加に繋げる。</li> </ul>						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○	○	○	○	○	
	活動指標						
	① アンケート実施数 ② 介護予防普及啓発講座、介護予防月間地域型イベントへ初めて参加した参加者数 ③ つくし野マップを活用したウォーキング参加者数(マップ活用)						
	目標値			① 100件 ②20名③20名			
	実績値			① 196件 ②70名③50名			

実績	2025年度の成果
	<p>プレフレイルのうちから介護予防を意識してもらうため、戸別訪問にてつくし野の前期高齢者を訪問。介護予防の普及啓発や自主活動に繋げるよう社会資源冊子を配布。また、介護予防月間地域型イベントについては広報活動を行い、参加者が増えたと報告があったため目標は概ね達成できたと考える。地域ケア推進会議で作成したお散歩マップを活用して参加者 50 名とウォーキングイベントを実施できた。アンケートの95%が講座の内容を取り入れたいと答え、運動を希望する住民が多いことがわかった。また、広報誌による老人クラブの特集に関して、参加者が増え、既存の参加者の介護予防に対するモチベーションの増加に繋がった。</p>
績	2026年度に向けた課題
	<p>戸別訪問に関しては全体の件数が 186 件、そのうち対面で話が出来たのは 33 件、インターホン越しが 38 件だった。対面で地域活動を周知し、活動や講座参加による介護予防の普及啓発を図る狙いがあったが、特殊詐欺や訪問販売などを警戒する昨今としてはこの手法に限界があることが分かった。それに反して身近な方からのアプローチによる講座参加率が高いことは参加者の声として挙がっているため、今後は介護予防の普及の一翼を担う介護予防サポーター、見守り連絡員、協力員、認知症サポーターになりうるキーマンの発掘、働きかけが必要。また、認知症普及啓発講座は新しい参加者が多かったが、ウォーキングだと新規参加者は少なかった。改めて地域デビューのハードルが高いということが判明。運動に特化せず別の切り口で普及啓発を展開する必要がある。また、地域に顔を出さない閉じこもり高齢者へどのように介護予防をアプローチしていくか手法の検討が必要。</p>

取組名(3)	安心して暮らすための支え合うネットワークづくり
計画	<p>目標</p> <p>ネットワークを密にして支援が必要な方を取りこぼさないようにする。</p>
	<p>2025年度取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄席などを活用して老人クラブ等地域の団体に見守りの講座を実施。</li> <li>・強盗や特殊詐欺などの被害が多数あり、対応策について啓発し、地域の見守りの芽を育てる。全域の見守り関係者と第 2 回目の交流会を実施。南第 1 エリアの見守りについて一緒に考えていく。</li> <li>・権利擁護の普及啓発講座を実施し、金銭面においても本人の不利益にならないような支援の仕組みを学ぶ。</li> <li>・民生委員やケアマネジャーと情報交換会、勉強会を実施して連携を深める。</li> <li>・老人クラブや医療機関、地域の事業所等の地域資源を訪問、連携して地域で支え合える仕組みを模索する。</li> </ul>

	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○	○	○
実績	活動指標						
	① 見守り講座、交流会参加数 ② ネットワークに関する会議の参加回数 ③ 老人クラブ、医療機関、事業所の訪問数						
	目標値			① 40名②10回③10か所			
	実績値			① 97名②11回③老人クラブ19件(各クラブ)、医療機関15件、事業所22件			
	2025年度の成果						
<p>寄席や漫才を活用した見守り普及啓発講座を実施。見守り交流会では、防災安全部と共に見守り活動に関わる住民と特殊詐欺や救急対応した事例を共有して意見交換を行った。センターより情報提供し、もしもの時の対策として、救急医療情報キットやあんしんキーホルダーを準備していくことになった。権利擁護に関しては、行政書士と家族介護者が共に学び、オレンジみなみ風では、もしばなゲームを用いてACPについて考えた。見守りを行うネットワークについては、民生委員やケアマネジャーとそれぞれ勉強会と意見交換会を実施。民生委員の担当区域変更による地域の見守りについても協議した。また広報誌掲載のため老人クラブを取材、医療機関訪問も実施し、医師とも地域の見守りについて意見交換を行い、ネットワーク構築の強化に繋がった。</p>							
2026年度に向けた課題							
<p>特殊詐欺や消費者被害についての報告が多数あがっており、民生委員不在地域の拡大や見守り合う関係が手薄となっていることも要因の一つと考えられる。閉じこもり等が理由で情報が届かない方へどう必要な情報を届けるのか、担当地域では自治会消失もあり、自助だけでは心配な高齢者のフォローが難しくなっている。そこで、多世代や自治会、民生委員、医療機関、福祉関係者など様々なネットワークをつくり見守り合う地域の構築を目指す必要がある。</p>							

### 3 市のコメント

#### 【良い取り組みだと感じた点】

- ・認知症に対する取り組みについて、寄席や漫才を活用した見守り普及啓発講座、閉じこもり高齢者に向けたウォーキング等、目標設定と具体的な取り組みが連動している。
- ・認知症の居場所づくりについて、当事者や家族の思いを大切に、オレンジみなみ風が安心して参加できる居場所として定着している。また、普及啓発において各種講座やイベント等を通じて、「認知症かるた(仮称)」を活用するなど、伝える工夫をしながら幅広い世代に発信している。

**【次年度以降力を入れてほしい点】**

- ・引き続き、「新しい認知症観」の普及啓発に取り組んでほしい。
- ・老人クラブ数が減少してきている中で、広報誌に老人クラブの活動内容を掲載し PR している点については、引き続き取り組んでほしい。

## 2025年度南第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### (1) 現状 重点地区①南成瀬 1～3 丁目

(以下、JAGES や KDB データ等より)

成瀬駅周辺に位置し、公共交通機関の利便性が高い。坂の多い地域で、地域住民は関節や筋肉の疾患を持つ人が目立つ。90 歳代以上の高齢者が増加し、かつて地域で行われていた「町トレ」は、参加者の高齢化とリーダー不足により終了した経緯がある。2024 年度に実施した見守り普及啓発講座や地域支え合い連絡会は参加者が少ない状況であったことから、センター主導や一部の代表者によるテーマの設定ではない形が求められているのではないかと仮説を立てた。

#### 【課題】

高齢化と坂の多い地域性から、今後近隣で実践できる介護予防活動の必要性があるが、広く意見を収集できていないこと。

#### (2) 現状 重点地域②金森東 1 丁目(高ヶ坂都営住宅)

同都営住宅では民生委員が欠員しておりセンターへの相談も他地域に比べ少ない。シルバーピアの棟には LSA が配置されているが、別棟の住民の相談窓口としては機能していない。独居の高齢者が多い。近隣に商店やスーパーがなく、生活利便性に課題を抱えている。また生活習慣病の罹患者が多い一方で、長時間の運動習慣を持つ住民は少ない状況である。地域住民から「認知症」や「精神疾患」などに関する相談が比較的多い。

#### 【課題】

認知症や精神疾患などによりコミュニケーションなどに支障があり、住民同士の関係性が崩れるリスクが高い。生活利便性の低さから、将来的に住民は生活困難を抱えるリスクが高い。また情報が行き届かず潜在的な要支援者がいる可能性がある。

#### (3) 現状 全域

担当地域の高齢化率は町名ごとに 23.8%から 31.1%まで開きがあり、入れ替わりの多い地域ほど高齢化率が低く、集中的に開発された地域ほど急激な高齢化が進んでいる。これまで「南成瀬中学校ステップルームの支援」や「ストリートミシンの子に知識・技術を伝えるボランティア」などの貢献の場が把握されている。

#### 【課題】

どのような活動にニーズがあるのかなどを引き続き把握する。そのニーズを元に高齢者が地域に貢献できる活動の場を把握していく必要がある。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<b>取組名(1)</b>		一人のリーダーに頼らない介護予防活動の推進					
計 画	目標	既存の介護予防活動の場の把握と周知を通し、活動ニーズのある南成瀬1～3丁目付近の住民がいずれかの活動を実施している状態を目指すとともに、1人のリーダーに依存しない持続可能な介護予防活動体制を構築する。					
	2025年度の取組	南成瀬1～3丁目では、住民の主体的な参加を促進するため、各種講座や介護予防サポーター養成講座の実施に向けて企画を見直し、近隣の介護予防サポーターや自治会と連携し行っていく。新たなサポーターは地域活動団体の参加者として活動の促進に協力することで、一人のリーダーに依存しない持続可能な介護予防活動体制を構築する。同地域住民のニーズにあった形で進むことで主体性と継続性を保ち、自助・互助による健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指す。					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
					○		
	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実施する講座のテーマ設定に向けた住民アンケート</li> <li>② 近隣に住む介護予防サポーターや住民の介護予防サポーター交流会企画会の参加者数</li> <li>③ 一人のリーダーに依存しない介護予防活動団体の立ち上げ支援</li> <li>④ 介護予防サポーター養成講座後地域活動につながった人数</li> </ul>					
		目標値	① 50件②10名③1回④5名				
実 績		実績値	① 60件② 6名③1回④1名				
	2025年度の成果						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アンケート数は目標を上回って実施できた。「運動」に関する講座の希望が多く、次いで「認知症・脳トレ」などの希望あり。町トレの情報や地域資源リストの運動に関する情報提供について発信。また認知症については2月の南地区社協イベントにおいて実施を計画している。</li> <li>② 交流会企画について、積極的に関わってくれたサポーターが6名。目標未達の要因として、年間計画による日程ではなく、1か月前の企画となったため都合が合わなかった方が複数いた。</li> <li>③ リーダーだけに頼らない形(グループ内での役割分担、既存のつながりがあるメン</li> </ul>						

	<p>バーが多く関係性が良好であることも要因)でモルックの自主グループ立ち上げができた。</p> <p>④ 南圏域版サポーター養成講座修了者の内 1 名が当センターの取り組みに参加した。目標未達について、養成講座の受講者母数が例年減少傾向であること、またサポーターの目的があいまい、ないし十分に伝えられていないことが要因と考えられる。</p>
	2026年度に向けた課題
	<p>介護予防サポーターの役割と目的を地域に浸透させる必要がある。サポーターは本来、地域の介護予防活動を引っ張っていく力を持っているが、最近はその役割を果たすことをためらう傾向がある。本来の力を発揮してもらうために、引き続き企画を共に行うことで、サポーター自身の意見を明確化するとともに、グループの運営をどのようにやっていけばよいかを身につける機会を作り、リーダーシップを発揮する力と仕組みを伝えていく。</p>

<b>取組名(2)</b>	認知症サポーターの養成による見守り・相談体制の構築						
計 画	目標						
	同地域の相談がセンターにつながりやすくなるよう、見守り及び相談機能を備えた認知症サポーターを増やし、住民間の関係性を維持につなげていく。						
	2025年度の取組						
	<p>認知症や精神疾患のある方に対する理解力の向上を目指し、団地住民向けに認知症サポーター養成講座を実施する。住民間の関係性が維持されることにより、不安や過度なストレスの発生を予防し、疾患の悪化を抑制する効果も期待できる。</p> <p>また、センターとの連絡が気軽にできるようにし、住民の実態把握を進めていく。</p> <p>見守り連絡員・協力員の登録につなぎ、継続的に話し合える関係性を構築することで、ニーズを聞き取り、将来の生活上のリスクを想定した介護予防の取り組みを推進し住民同士の支え合いの基盤を整える。</p>						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○		
	活動指標						
	<p>① 認知症サポーター養成講座の実施回数</p> <p>② 見守り連絡員・協力員の登録人数</p> <p>③ 団地内の生活上のリスクに関する話し合い開催数</p>						
	目標値			① 2回②10名③2回			
	実績値			① 2回② 0名③2回			

実績	2025年度の成果
	<p>① 1回目:ふれあいもみじ館利用者向けに開催。 2回目:2月に南地区社会福祉協議会主催夢サポひろばにおいて開催予定。 広く参加者を募集できる環境であったことやセンターへ相談に行く機会が今までなかった方へも認知症への理解を進めることができた。</p> <p>② 講座・イベント時に、見守り連絡員・協力員の周知を行ったが新規登録には至らなかった。引き続き、1月～3月期もイベント・講座などで見守り連絡員・協力員の広報を実施予定</p> <p>③ 「金森一丁目団地におけるポストの郵便物を持ちだされる」ケース 介護予防普及啓発講座「テーマ:認知症」において、生活上のリスクや相談先の周知を実施予定(1月21日)金森東1丁目(高ヶ坂都営住宅)</p>
	2026年度に向けた課題
	<p>認知症・精神疾患の方への見守り・対応について悩んでいる方が多い。排除するのではなく、地域で一緒に暮らしていくために、周囲の人が認知症等になった時にどう関わっていけばよいかを普及啓発し、住民協働の話し合いの場をつくっていく。(例えば、地域住民(見守りネットワークなど)、民生児童委員、LSAなどが参加する地域ケア推進会議・地域支え合い連絡会などを通して、団地内などでどのような話し合いを展開すればよいかを習得する)知りたいと思った時に速やかに情報や講座につなげられる仕組みを作る。</p>

<b>取組名(3)</b>	生きがいとなる活躍・貢献できる場をつくる(継続)
計画	目標
	<p>地域の高齢者自身や家族が、近隣の様々なことの役に立つ存在だと感じ、生活ができるようになる。また地域の困りごとを抱える人・企業等が地域の高齢者に助力を求められるようになる。</p>
	2025年度の取組
	<p>引き続き、担当圏域内における社会参加・社会復帰の場をリサーチし、地域高齢者とのマッチングと、活動が軌道に乗るまでの間、伴走的支援を実施をする。</p> <p>貢献の場の把握を推進する必要がある。人によって年1回のイベントなど単発な場が良い方、継続的な場が良い方、定期的な開催が合う方などニーズは異なるため、多様な貢献の場の把握ができるようにしていく。</p> <p>ストリートミシンの場は高齢者ではなく母親世代のつながりの中で実施する情報を得たことから、SNSなどの活用を推進し、若い世代との情報交換ができる体制を強化していく。「住民とともにつくる」場づくりについて、センター主導となり過ぎないように、地域診断の充実と、地域ネットワークの構築、貢献の場とニーズの把握を進めていく。</p>

	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○		
	活動指標						
	① 社会貢献の場の情報把握数 ② 社会貢献活動を求める方のニーズ調査件数 ③ 社会貢献の場と社会貢献を求める方のマッチング数						
実績	目標値		① 10件、②20件、③5件				
	実績値		① 15件 ②11件 ③3件(該当7件中)				
	2025年度の成果						
	① 市民からの相談をスプレッドシートに一覧化した。「講座の実施」「編み物技術の講義」「学校で使用する備品の作成」など 15 件の相談を受け付け、内 7 件を貢献の場として、地域高齢者へ発信、協力を得た。 ② ニーズ調査ツールを Google フォームで作成し、センター内で運用を協議中。実装段階に至らず目標未達。現在は個別連絡にて、把握できた活動の場をお伝えし、担当してくださる方を募っている段階。 ③ 「編み物のレクチャー」「モルックグループ立ち上げ」の実施。「中学校の配膳車のカバー作成」の調整中。他 4 件は、担当ないし協力してくださる方がおらず、センター対応を行った。						
績	2026年度に向けた課題						
	「地域ニーズ」と「活動・貢献ニーズ」の把握数を増やしていく必要がある。現在はツールの試験運用段階であるが、実装し、まずは地域の住民(自治会・町内会)、自主グループを中心に普及を行う。また段階的にボランティアコーディネーターや関係機関・企業への発信を行うことで、より若い年齢層にも広げる仕組みにする。						

### 3 市のコメント

#### 【よい取り組みだと感じた点】

- ・南成瀬 1～3 丁目のアンケートをもとに、町トレの情報提供と地域の運動資源リストの周知を迅速に実施している。認知症については、イベントの実施までつなげている。
- ・認知症や精神疾患のある方の見守り支援については、認知症サポーター養成講座を実施したり、専門職として個別事例の支援を行うことで、ネガティブなイメージをやわらげ、住民の寛容性を引き出している。

#### 【次年度以降力を入れてほしい点】

- ・引き続き、アンケートや対話を通じて住民のニーズを把握し、迅速に対応するとともに、地域課題の把握にも繋げてもらえることを期待したい。
- ・認知症や精神疾患等の複合的な課題を抱えるケースの支援について、引き続き関係機関と連携を図りながら対応し、好事例として積み上げてほしい。



## 2025年度南第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### (1) 現状

支援センターが関わってきた地域の活動グループへの聞き取りでは、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、活動の継続に不安を感じている団体が多い。活動中の自主グループでも、生活支援などを行う地域の活動団体でも、高齢化に伴う担い手不足で、既存の会員の退会や新規加入者の減少が続いており、活動継続への不安や危機感を訴える声が増えている。

#### 【課題】

既存の活動団体の構成メンバーの高齢化と次の世代の加入者不足、担い手不足に伴い、活動の先細りリスクが高まっている。

#### (2) 現状

高ヶ坂地区では、相談者に情報提供できる活動グループが従来から相対的に少ない。昨年度、公社住宅エリアで新たに1グループが発足したものの、主要メンバーの転居や参加者の減少により、老人会の解散が相次いで2件報告された。運営の中心メンバーが退会したり、一人で複数のグループを支えていたりした影響で、複数のグループが活動休止を余儀なくされた。

#### 【課題】

高ヶ坂地区において老人会2件の解散に伴い、活動の場や参加の機会が明らかに減少している。

#### (3) 現状

これまでの取り組みや総合相談の中で、高齢者が必要とする情報が十分に届いていないとの声が多かったことから、従来の紙媒体での情報発信に加えて、電子媒体での発信にも注力してきた。スマートフォンのLINEアプリの活用など、高齢者のITリテラシーは着実に向上しており、当センターのホームページの活用例も少しずつ増えている。一方で、ホームページのアクセス解析の結果や、日頃の相談業務の中での住民の声からは、やはり紙媒体での情報発信、さらには直接対話を通じた発信も並行して行っていくことが求められている。

#### 【課題】

高齢者が暮らしの中で必要とする情報が十分には届いていない。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		既存の活動団体の先細りリスクへの支援					
計 画	目標	新しいメンバーやアクティブシニアが既存の活動に参加して、自主グループや自治会、地域の活動団体の活動が活発になり、楽しみとやりがいを感じながら続けられる。					
	2025年度の取組	① 自主グループ情報交換会を開催して、運営上の課題と工夫を共有する。 ② 活動継続への不安が強いグループを抽出して、広報その他の支援をする。 ③ 地域の各活動団体に介護予防月間地域型イベントへの参加を呼びかけて、団体同士の交流、情報交換を促すことで、活動の活性化を支援する。					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
	活動指標	① 自主グループ交流会開催回数 ② 広報したグループ数 ③ 介護予防月間地域型イベントへの参加団体数					
	目標値	① 1回 ② 10グループ ③ 6団体					
実績値	① 1回 ② 10グループ ③ 22団体						
実 績	2025年度の成果	① 情報交換会に12団体18名が参加。会場確保の難しさや参加者数の減少、男性の参加が少ない事が課題として取り上げられ、活動意欲に繋がる工夫も共有された。 ② グループを訪問して、ホームページを中心に広報実施。メンバー募集の意向が特に強かった4グループについて、チラシ作成、エンサポ及び広報まちだへの掲載支援実施。 ③ 団体の取り組みを知った住民がその活動に参加したり、学生が企画したお手玉ビンゴが地域のサロンで実施されるなど、住民が団体の活動を知る機会、参加した各団体が他団体の活動に興味を持ち、情報交換や連携の機会となった。					
	2026年度に向けた課題	・交流会への団体の参加率が27%と低く、参加していない団体へのフォローが不十分だった。 ・地域活動への興味は広がっているが、実際に担い手として動ける人が限られているため、関わりやすい小さな役割設定やフォロー体制をどのように整えるかが課題。					

取組名(2)		高ヶ坂地区での活動の場、参加の機会の創出					
計 画	目標						
	地域住民が自宅近くにある通いの場や、自分の興味関心、趣味、やりがいや生き方に合った活動に参加することができる。						
	2025年度の取組						
	① 高ヶ坂地区で活動してきた個人・団体への聞き取り調査を実施して、生活課題やニーズを把握する。						
	② 自治会や老人会などと協働して、高ヶ坂地区での新たな通い場作りを支援する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
	活動指標						
	① 高ヶ坂地区の個人・団体への聞き取り件数						
	② 高ヶ坂地区での新たな通い場の立ち上げ件数						
目標値			① 30件 ②1件				
実績値			① 35件 ②1件				
実 績	2025年度の成果						
	① 地域アセスメントを実施。住民からの聞き取りにより、高齢者の外出の機会、交流や支え合いの場、担い手の不足、地域に暮らす外国の方とのコミュニケーションの課題など、地域の生活課題やニーズを明確化することが出来た。						
	② 高ヶ坂第2アパートで地域介護予防教室を実施し、モルックの自主グループが立ち上がった。						
	2026年度に向けた課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに支援センターとの関わりがない住民へのアプローチが課題</li> <li>・アセスメントをおこなった後に支え合い連絡会を開催。若い世代を含めた交流のきっかけ・交流の場が少ないことが課題</li> </ul>							

取組名(3)		紙媒体と電子媒体の両輪での情報発信の強化					
計 画	目標						
	暮らしの中での困り事や不安、興味関心のあることに関する情報が、必要としている人に届く機会を増やし、自ら必要な情報を取得できる人が増える。						
	2025年度の取組						
	① 自宅の住み開き、店舗の空きスペース開放による活動事例集を作成して、紹介する。						
	② 自治会や福祉施設等、街中の掲示板の存在をさらに周知できる新たな取り組みを検討し、実践する。						
	③ 支援センターのホームページを活用して情報提供を行った専門職への聞き取り調査を行い、電子媒体の発信方法の改善に向けてニーズを把握する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○		
	活動指標						
	① 紹介事例件数						
② 周知のために実践できた取り組み件数							
③ 専門職への聞き取り調査件数							
目標値			① 5件 ② 3件 ③ 30件				
実績値			① 5件 ② 0件 ③ 30件				
実 績	2025年度の成果						
	① 紹介事例集を作成し相談者に紹介できた。ホームページでは、住み開きで町トレを実施している団体を紹介。						
	② 掲示板の運用状況の聞き取りをおこなった結果、どの自治会も負担に感じており新たな取り組みの提案まで至らなかった。						
	③ 専門職への聞き取り調査により、活動団体の活動場所が分かりづらく、地域別に掲載してあると紹介しやすい等、情報量の適切さ、見易さ、探し易さ、専門職が現場で必要とする具体的な改善点やニーズを整理することが出来た。						
	2026年度に向けた課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ及び広報誌の発信内容の整理・再構築や更新体制の見直しが今後の課題。</li> <li>・掲示板運用が自治会の負担になっているが、作業負担の実態や掲示板から情報を受けとる側のニーズ把握ができていない。</li> </ul>							

### 3 市のコメント

**【よい取り組みだと感じた点】**

- ・地域介護予防教室から新たな自主グループが立ち上がっている。
- ・専門職への聞き取り調査を通して、電子媒体の発信方法についてニーズ把握を行っており、より地域の実態に沿った発信方法の検討材料となっている。
- ・桜美林大学とのつながりが強く、学生ボランティアや実習の受け入れ、教員との連携などが活発に行われている。

**【次年度以降力を入れてほしい点】**

- ・機会があれば、専門職だけでなく、高齢者を含む地域住民に向けた調査を実施し、より様々な対象者の目に留まる情報発信について検討してほしい。
- ・桜美林大学との強固な連携(学生ボランティア、実習、教員との協力)はセンターの重要な資源であるため、引き続きこの関係性を維持し、さらなる連携強化を図ってほしい。



## 2025年度医療と介護の連携支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 町田市の現状と課題

センターとして考える町田市における在宅医療・介護連携推進事業の現状と課題を記載してください。

#### (1) 現状

地域ケア推進会議において、医療機関を選定する際に、利用者や専門職が必要な情報に辿り着けておらず、医療機関を適切に選定できていない現状を把握した。また、専門職がかかりつけ医がない利用者等に対し、医療面からの判断がないまま、専門の医療機関を選定している現状を把握した。

専門の医療機関を適切に選定するには、普段の医療状況を知るかかりつけ医の判断が起点となり、専門医療の利用につなげることが望ましいが、市民や専門職の間では、かかりつけ医の役割とその必要性に対する理解が進んでいない現状がある。

#### 【課題】

高齢者、その家族、支援者において、かかりつけ医の役割や必要性の認識が不十分であり、かかりつけ医療機関を持つ習慣が浸透していない。利用者本人の既往歴や普段の状況を把握しているかかりつけ医がないことにより、利用者等は自身がかかるべき専門的医療機関等の情報にたどり着けておらず、スムーズな専門的医療機関の受診に繋がっていないという課題がある。

#### (2) 現状

医療と介護の連携を推進する役割を持つ当センターとして、三師会に所属する医療機関との関係性構築が必要不可欠である。そのため医療機関へ積極的に訪問を行い、コミュニケーションを図ってきた。訪問による関係構築を図ることで、相談件数および全体における医療機関からの相談比率は年々増加している。

#### 【課題】

三師会を中心とした医療機関との関係構築において、総合相談の傾向から分析を行った結果、医療機関全体の相談比率は増加傾向にあるが、歯科医師会所属の医療機関からの相談件数が少ないことが分かった。歯科医師会所属の医療機関の訪問実績も少ないため、歯科医師会所属の医療機関とのより顔の見える関係性を構築する必要がある。

#### (3) 現状

認知症疾患医療センターとかかりつけ医との連携について課題整理を行った結果、専門職がかかりつけ医と認知症疾患医療センターのそれぞれの役割や連携に関する知識を得られる機会が少ないという現状を把握した。

#### 【課題】

専門職が、かかりつけ医と認知症疾患医療センターのそれぞれの役割や連携に関する理解が不十分であるため、かかりつけ医の判断を経ることなく専門医療への受診を案内してしまうという課題を把握している。また、認知症疾患医療センターが市民や専門職からかかりつけ医にされてしまい、治療後に地域のかかりつけ医に戻すことができないという課題が生じている。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		地域ケア推進会議を活用したかかりつけ医療機関普及への取り組み	
計	目標		
	高齢者が、住み慣れた地域で望んだ医療を受診できるよう、いつでも自身に必要な医療機関の情報に辿り着き、専門的医療機関の受診が必要となった際には、かかりつけ医を通じてスムーズに適切な医療機関に受診することができる体制を構築する。		
	2025年度の取組		
	三師会及び地域の専門職と協働し、高齢者や専門職がかかりつけ医の役割や必要性を認識し、より多くの高齢者が地域でかかりつけ医を持つための取組を検討する地域ケア会議を開催する。		
画	活動指標		
	かかりつけ医をテーマとした地域ケア推進会議の実施回数		
	目標値	地域ケア推進会議(テーマ:かかりつけ医) 年2回の開催	
実	実績値	地域ケア推進会議(テーマ:かかりつけ医) 年2回の実施	
	2025年度の成果		
	12/16 にセンター主催の地域ケア推進会議を開催、「かかりつけ医とつながるために」というテーマでかかりつけ医と共有すべき情報や円滑に繋がるためのツールについて、現状の連絡手段やその課題を協議した。昨年度から当センターにてかかりつけ医の周知定着に取り組んでおり、今年度より町プロ協議会にて多職種連携研修会(専門職向け・市民向け)のテーマに採用されている。周知が進む中、かかりつけ医療を担う地域医の先生に出来ることと患者や家族、介護事業者等の考えるかかりつけ医像に乖離があることも明らかになった。それらを踏まえて、かかりつけ医と専門職でどういった情報をどのような手段で共有、活用するかについて議論を進めた。		
	2026年度に向けた課題		
績	2025年度の地域ケア推進会議を通し、かかりつけ医療を担う地域医の先生に出来ることと患者や家族、介護事業者等の考えるかかりつけ医像に乖離があることを課題として把握した。それを踏まえ、かかりつけ医が提供できることと求められるものを医療機関、介護事業所から意見集約し、医療介護連携におけるかかりつけ医の領域を明確にすることで、かかりつけ医を担う地域医の先生が地域連携に参画頂けるような環境を模索していく。並行して、現在FAXに次いで使われているICTツールについて連携の円滑な運用を担うものとして、町田市内で過去検討された圏域の情報も参考にしながら地域での周知浸透を図り、かかりつけ医と専門職の連携に役立てられる共通の基盤作りの構築を図る。		

<b>取組名②</b>		医療機関と連携協働を図れる体制の構築	
計 画	目標		
	医師会・歯科医師会・薬剤師会に所属する医療機関を中心に訪問を継続し、当センターおよび高齢者支援センターの周知活動を行い、顔の見える関係を目指す。これにより、三師会を中心とした医療機関とのさらなる連携や協働体制の構築を推進する。		
	2025年度の取組		
	医療機関と連携協働を図れる体制作りを目指し、引き続き訪問と広報活動を継続する。今年度は歯科医師会会員への訪問を重点的に行い、顔の見える関係の構築を行う。また、歯科医師会事務局と連携し、計画的な広報活動を展開する。医師会、薬剤師会においてもこれまでの活動による顔の見える関係を活かし、継続した連携を図る。		
	活動指標		
	歯科医師会所属医療機関への訪問件数		
	目標値	年間 50 件以上	
	実績値	訪問 118 件実施	
実 績	2025年度の成果		
	歯科医師会所属医療機関に全118件へ訪問し、当センターの役割と活動内容を説明、事業所へ連携協働の場への参加を依頼するなど関係性の構築を行った。その後、歯科医師会所属医療機関から、認知症を疑われる方や支援が必要と思われる方の相談のご連絡をいただいた。当センターの活動の周知ができたと思われる。		
	2026年度に向けた課題		
	医療機関と連携協働を図れる体制づくりを目指し、引き続き広報活動を継続する。医師会、薬剤師会、歯科医師会においても、これまでの活動による顔の見える関係を生かし、継続した連携を図る。		

<b>取組名③</b>		認知症疾患医療センターと協働した専門職向けセミナーの実施	
計	目標		
	専門職がかかりつけ医と認知症疾患医療センターのそれぞれの役割や連携についての知識を深め、高齢者に適切な医療機関の案内を行うことにより、認知症の方が適切に医療を受けながら望んだ地域で生活ができる体制の構築を図る。		
画	2025年度の取組		
	専門職にかかりつけ医と認知症疾患医療センターのそれぞれの役割と連携について理解してもらうため、認知症をテーマとした多職種連携協働強化セミナーを開催する。		

	活動指標	
	セミナー参加者のアンケートに基づく満足度	
	目標値	「セミナーに出席して良かった(役立った)」に対して 「そう思う」という回答が70%以上。
実績	実績値	「セミナーに出席して良かった(役立った)」に対して 「そう思う」という回答が96.1%
	2025年度の成果	
	医療関係者や介護支援専門員、高齢者支援センター職員などの幅広い職種に参加頂いた。 認知症疾患医療センター長小松弘幸先生より、認知症ケアにおける認知症疾患医療センターとかかりつけ医の役割や地域との連携体制についてお話ししていただいた。 参加者からは「認知症疾患医療センターの役割や機能、地域での支援体制を知る機会となった」、「認知症初期の早期発見、早期治療に繋がるセミナーだった」等ご意見をいただき、専門職がかかりつけ医と認知症疾患医療センターのそれぞれの役割や連携についての知識を深めることができたと言える。	
	2026年度に向けた課題	
	歯科医師会所属医療機関訪問において、認知症が疑われる方の治療中断や予約の無断キャンセル等が多い現状を把握している。また、総合相談においても認知症に関連した相談は毎月入っている。今後も認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症疾患医療センターと連携し、多職種協働体制の強化に資する方策について検討を進める。	

### 3 市のコメント

#### 【よい取り組みだと感じた点】

- ・歯科医師会への訪問を重点的に行い、医療と介護の連携支援センターの役割の周知や顔の見える関係づくりを実施したことにより、歯科医院等からの相談・問い合わせが増加している。
- ・認知症疾患医療センターと協働した専門職セミナーにおいて、医療と介護の連携支援センターが把握していた「かかりつけ医」に関する課題も含めた内容を取り上げ、専門職の理解を深めることができている。

#### 【次年度以降力を入れてほしい点】

- ・歯科医師会への訪問や総合相談において把握した認知症高齢者に関する課題について、認知症疾患医療センターと連携して解決に取り組んでほしい。
- ・引き続き、医師会、歯科医師会、薬剤師会等に向けて医療と介護の連携支援センターの役割周知や顔の見える関係づくりを行い、必要な時に相談ができる体制を構築してほしい。
- ・2025年度の地域ケア推進会議での議論をふまえ、かかりつけ医と専門職の連携をより推進するための取り組みを行ってほしい。医療職側からの視点に加えて、介護職側からの視点も大切にしたい。